

社会福祉法人・施設の地域における公益的な取組等の実施に関するアンケート調査報告書

目 次

I. 調査概要	1
II. 調査結果	4
1部 社会福祉法人・施設への調査結果	4
1. 回答法人・施設のプロフィール	4
2. 独自に取り組んでいる地域貢献活動	5
3. 現在、連携・協力している団体・機関	14
4. 地域貢献活動を行ったことによる成果	16
5. 地域貢献活動を行う上での課題	17
6. 地域貢献活動を行う上での地域との関わり方	18
7. 今後、取り組みたいと考えている地域貢献活動	19
8. 今後、連携・協力したい団体・機関	20
9. 他法人・施設との連携	22
10. 今後の地域貢献活動についての考え等（自由回答）	25
2部 地区社会福祉協議会への調査結果	27
1. 地域の課題	27
2. 地域活動を行う上での社会福祉法人・施設との関わり	28
3. 法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動で知っている活動	30
4. 今後、法人・施設に取り組んでほしい地域貢献活動	37
5. 法人・施設が地域貢献活動を行う上での効果	39
6. 地区社協が法人・施設と協力して地域貢献活動を行う上での課題	40
7. 社会福祉施設に対する思い（地域福祉活動の仲間・社会資源の1つ）	41
8. 法人・施設に期待している活動	41
9. 今後の法人・施設による地域貢献活動についての考え等（自由回答）	42
3部 地域貢献活動に対する特徴的な傾向（まとめ）	44

平成30年2月

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
経営者連絡会議・社会福祉事業連絡会議

I. 調査概要

1. 趣旨

平成 29 年 4 月施行の改正社会福祉法により、施設等を運営する社会福祉法人は、地域貢献活動（24 条「地域における公益的な取組」及び 55 条「地域公益事業」）に、より積極的に取り組むこととなりました。

本会では、昨年度（平成 28 年 8 月 4 日～9 月 2 日）「社会福祉法改正にかかるアンケート調査」を実施し、その中で地域貢献活動に関する各法人・施設の現在及び今後について、回答結果を報告書にまとめ、お知らせしました。

今年度は引き続き、社会福祉法人・施設の地域貢献活動の調査に加え、地域住民側のニーズも把握するため、市内の地区社会福祉協議会（以下、地区社協）に対し、社会福祉法人・施設とどのような関わりをもち、どのような関わりを期待しているか等についても調査しました。

本報告書では、それぞれの結果・分析の他、法人・施設の昨年度結果との比較、法人・施設と地区社協の結果の比較等をまとめました。

2. 目的

- ① 社会福祉法人・施設が実施している地域貢献活動の内容の把握
- ② 地区社会福祉協議会と社会福祉法人・施設との関わりと期待の把握
- ③ アンケート結果に基づく研修会等の実施
- ④ 各法人の支援に向けて、区社協、地区社協、行政等関係機関への情報提供

3. 調査対象

- ① 本会会員法人の内、社会福祉法人 303 法人
- ② 社会福祉法人の運営する本会会員施設 723 施設
- ③ 地区社会福祉協議会 256 地区社協

4. 調査期間

平成 29 年 9 月 21 日から平成 29 年 12 月 22 日

5. 回答方法

- ① 本会会員の内、社会福祉法人及び法人の運営する本会会員施設に対し、郵送または電子メールにてアンケートサイトを周知し、アンケートサイトから回答
- ② 地区社協に対し、区社会福祉協議会（以下、区社協）から調査票を配布、郵送または聞き取りにより回答を得て、その結果を区社協職員がアンケートサイトから回答

6. 回答状況

- ① 本会会員法人の内、社会福祉法人及び社会福祉法人の運営する本会会員施設
317 法人・施設（回答率：30.9%）※
- ② 地区社会福祉協議会 247 地区社協（回答率：96.5%）
- ※ 参考：昨年度（平成 28 年度）回答状況 366 法人・施設（回答率：35.9%）

7. 調査委託先

一般財団法人 日本総合研究所

8. 調査結果の要約

(1) 社会福祉法人・施設への調査結果(317 法人・施設)

●法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動について(現状と今後)

- ・独自に地域貢献活動に取り組んでいるのは、296 法人・施設で、回答のあった 317 法人・施設の 93.4%を占めている。
- ・取り組んでいる活動内容は、「ボランティア、福祉人材の育成」226 (76.4%)、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」192 (64.9%)、「地域の子育て支援」133 (44.9%)、「住民同士の交流の場づくり」107 (36.1%) 等が多い。
- ・また今後取り組みたい地域貢献活動も、「ボランティア、福祉人材の育成」165 (52.1%)、「地域を活性化する活動」157 (49.5%)、「住民同士の交流の場づくり」94 (29.7%)、「地域の子育て支援」92 (29.0%) 等が多い。
- ・活動を始めた経緯(理由)は、「地域にとって必要であると考え自ら企画して実施」が 154 (52.0%) で最も多い。また活動方法は「施設の場所や設備を活かした活動」188 (63.5%)、「施設職員の知識や経験を活かした活動」179 (60.5%) が多くなっている。今後の活動意向は「地域から求められれば、新たな活動に取り組みたい」が 158 (53.4%) と最も多い。

●法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動の成果と課題、関わり方

- ・地域貢献活動を行ったことの成果は、「地域の中で法人・施設の認知度が高まった」が 182 (61.5%) で最も多い。
- ・地域貢献活動を行う上での課題は、「業務が多忙で時間をとれない」が 171 (57.8%)、「人材不足で職員が関わるのが難しい」が 155 (52.4%) と多くなっている。
- ・地域貢献活動を行う上での地域との関わり方は、「地域が行う活動のネットワークの一員として活動したい」が 133 (42.0%) で最も多い。

●地域の団体・機関との連携、他法人・施設との連携

- ・地域貢献活動を行う際に連携・協力している団体・機関は「自治会町内会」、「民生委員・児童委員」、「地区社協」、「区社協」、「区役所」、「小学校・中学校」が多く、今後連携・協力したい団体・機関もほぼ同様の傾向である。
- ・地区社協とは4割強の法人・施設が連携をとっており、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動している」が 89 (67.5%) である。今後は約6割の法人・施設が連携したいと考えており、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動したい」も 144 (74.6%) と更に多くなっている。また「定期的に情報交換したい」も 105 (54.4%) と次に多くなっている。
- ・他法人・施設と連携して地域貢献活動を行うことについては、「すでに参加」85 (26.8%)、「参加したい」155 (48.9%) と、前向きな意見が多い。望ましい連携の形として「地域の課題やテーマごとに関係する法人・施設と連携する」が 158 (49.8%) と最も多くなっている。

(2) 地区社会福祉協議会への調査結果(247 地区社協)

●地域の課題

- ・地域の課題は、「一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増えている」194(78.5%)、「地域での支え合いの仕組みづくりがますます必要になっている」92(37.2%)、「健康維持管理、認知症予防、生きがいつくり等がますます必要になっている」76(30.8%)等が多く挙がっている。

●法人・施設の関わり

- ・社会福祉法人・施設とは、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、活動の一員として協力を依頼している」、「法人・施設の活動に協力している」が共に90(36.4%)と最も多い。今後は「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、活動の一員として協力を依頼したい」が120(48.6%)と更に多くなっている。また「定期的に情報交換したい」も106(42.9%)と次に多くなっている。

●法人・施設が行う地域貢献活動の認知と参加

- ・法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動で地区社協が知っている活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」、「地域の子育て支援」、「住民同士の交流の場づくり」等が多い。
- ・今後、法人・施設に取り組んでほしい地域貢献活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」、「住民同士の交流の場づくり」に加えて、「在宅で介護をしている世帯を支援する活動」、「認知症予防、介護予防」への期待も多くなっている。
- ・法人・施設の地域貢献活動を知っていると回答した188の地区社協のうち、実際に「関わりがある」と回答したのは117で全体の62.2%を占めている。行っている活動としては、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が68(58.1%)と最も多い。

●法人・施設が行う地域貢献活動の成果と課題と期待

- ・法人・施設が地域貢献活動を行うことで地域に与える効果は、「法人・施設の認知度が高まる」が175(70.9%)と最も多い。
- ・地域貢献活動を行う上での課題は、「法人・施設がどのような機能や専門性を持っているかわからない」が116(47.0%)、「法人・施設の本来業務が多忙でコミュニケーションをとれない」が88(35.6%)等となっている。
- ・地区社協は220(89.0%)が、「社会福祉法人は、地域貢献活動の仲間・社会資源の1つ」と考えている。期待している活動も「施設職員の知識や経験を活かした活動」170(68.8%)、「施設の場所や設備を活かした活動」123(49.8%)が多くなっている。

Ⅱ．調査結果

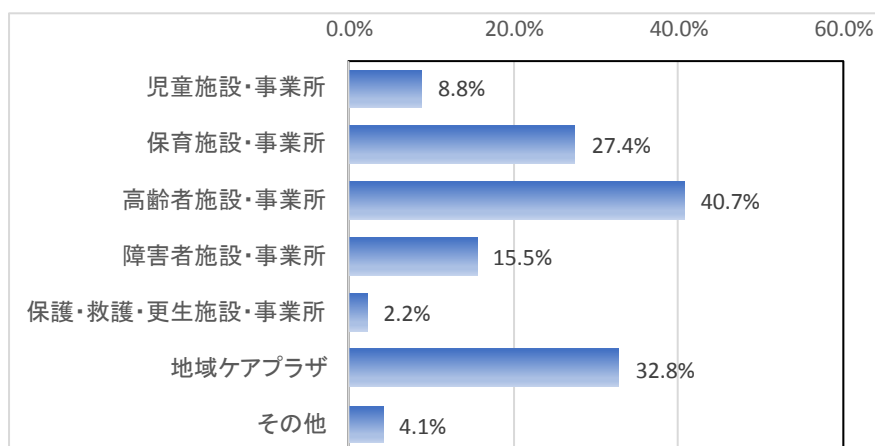
1部 会員法人・施設への調査結果

1. 回答法人・施設のプロフィール

有効回答数は、法人が131、施設が186、合わせて317となっています。

なお、法人・施設を合わせた種別は、高齢者施設・事業所が40.7%と最も多く、以下「地域ケアプラザ」、「保育施設・事業所」と続いています。

図1 法人・施設の種別(複数回答)



回答数：317 法人・施設

2. 独自に取り組んでいる地域貢献活動

(1) 活動の内容

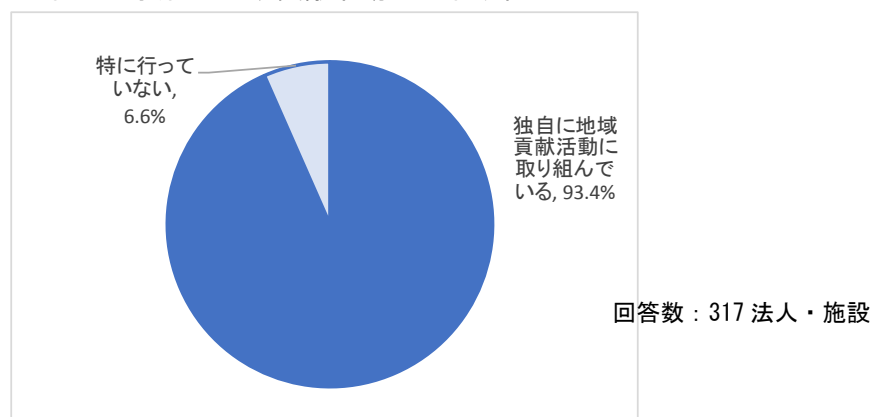
地域貢献活動に取り組んでいる法人・施設は 296 で全体の 93.4%を占めています。内容は「ボランティア、福祉人材の育成」や「地域のつながりを作る活動」が 6 割以上を占め、昨年度よりも増えています。

「独自に地域貢献活動に取り組んでいる」と回答した法人・施設は 296 で全体の 93.4%を占めています。「特に行っていない」は 21 (6.6%) です(図 2)。昨年度の調査と比較すると、取り組んでいる法人・施設の割合が増えています。「特に行っていない」も約 4 ポイント減少しており、法人・施設が地域貢献活動に前向きに取り組んでいる様子がうかがえます。

独自に地域貢献活動に取り組んでいる 296 法人・施設の活動内容は、「ボランティア、福祉人材の育成(実習生・インターンシップの受け入れ、介護体験、介護教室の開催、福祉教育等)」が 226 (76.4%) と最も多く、以下、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が 192 (64.9%)、「地域の子育て支援(育児サークル運営、パパ・ママ講座、園庭開放等)」が 133 (44.9%)、「住民同士の交流の場づくり(サロン活動、居場所づくり等)」が 107 (36.1%) 等となっています(図 3)。また、昨年度の調査と比較すると、全ての項目で取り組んでいる割合が増えています。

なお、その他の回答には「近隣公園の清掃」、「子ども 100 番の設置」、「がん患者や遺族の支援」、「青年学級の支援」等が挙げられています。

図 2 独自の地域貢献活動への取り組み



<参考 1 昨年度調査「独自の地域貢献活動への取り組み」>

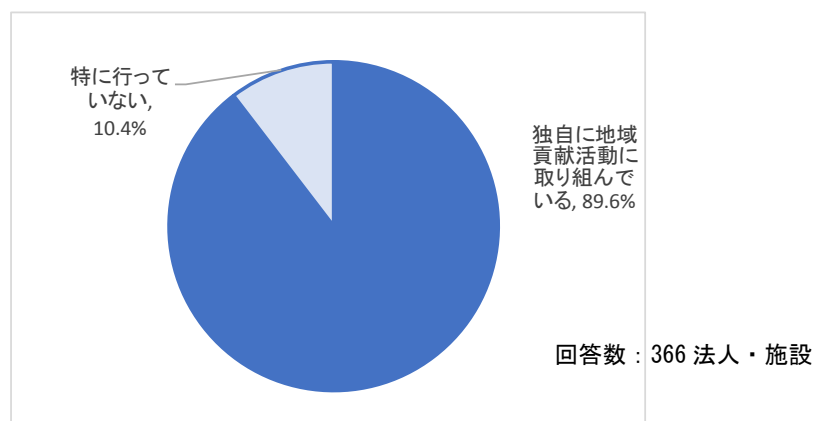
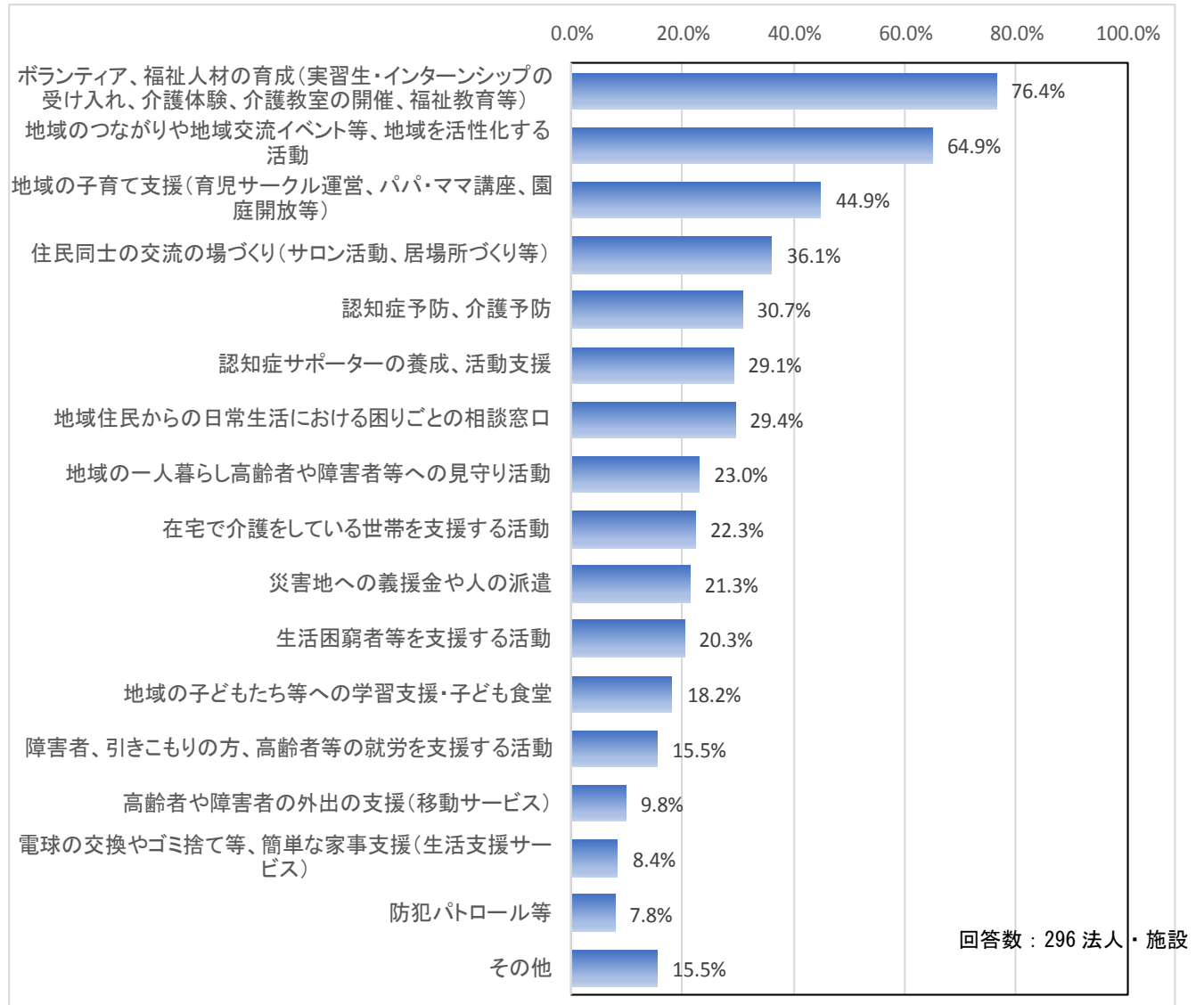
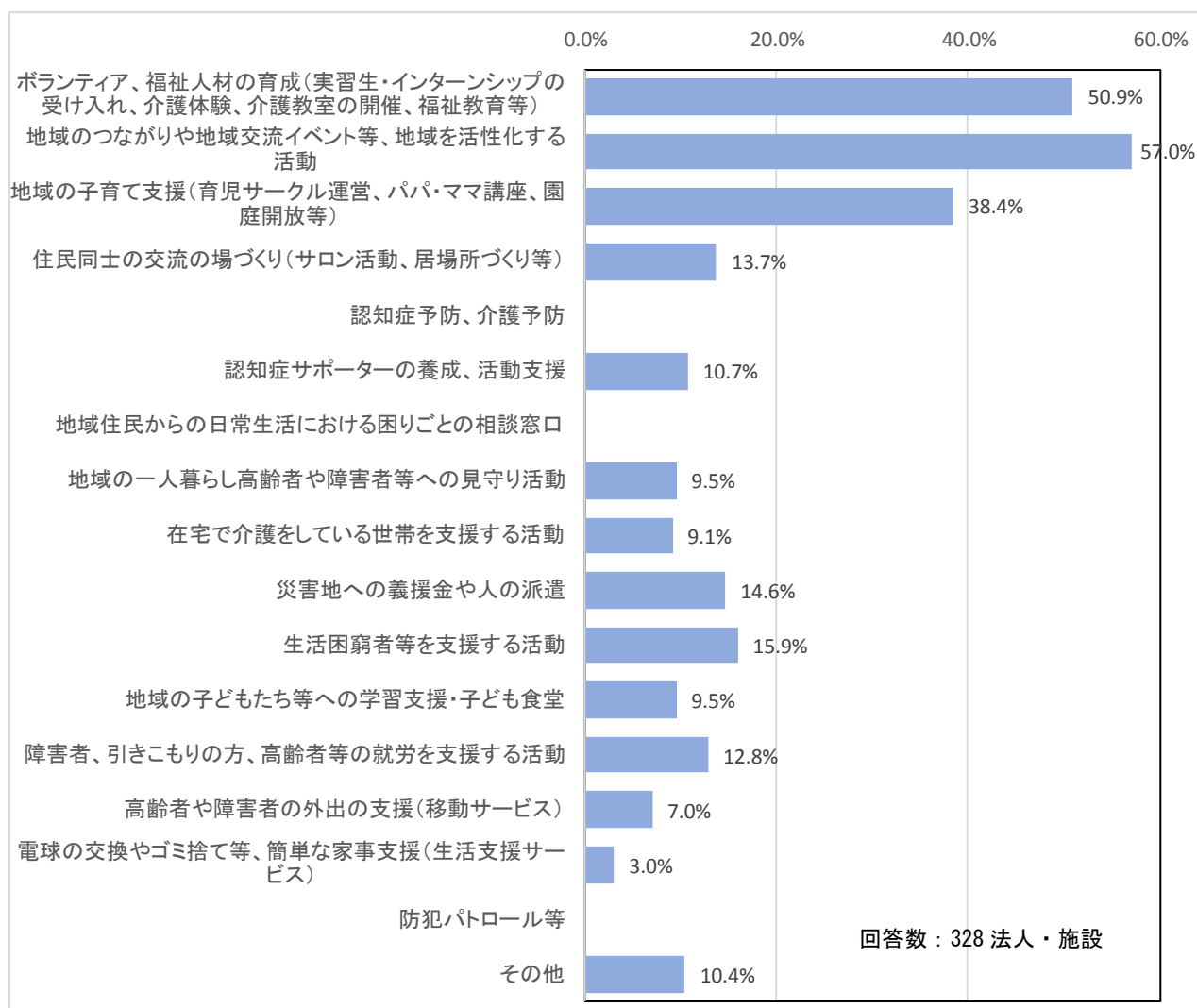


図3 独自に取り組んでいる地域貢献活動(複数回答)



<参考2 昨年度調査「取り組んでいる地域貢献活動(複数回答)」>



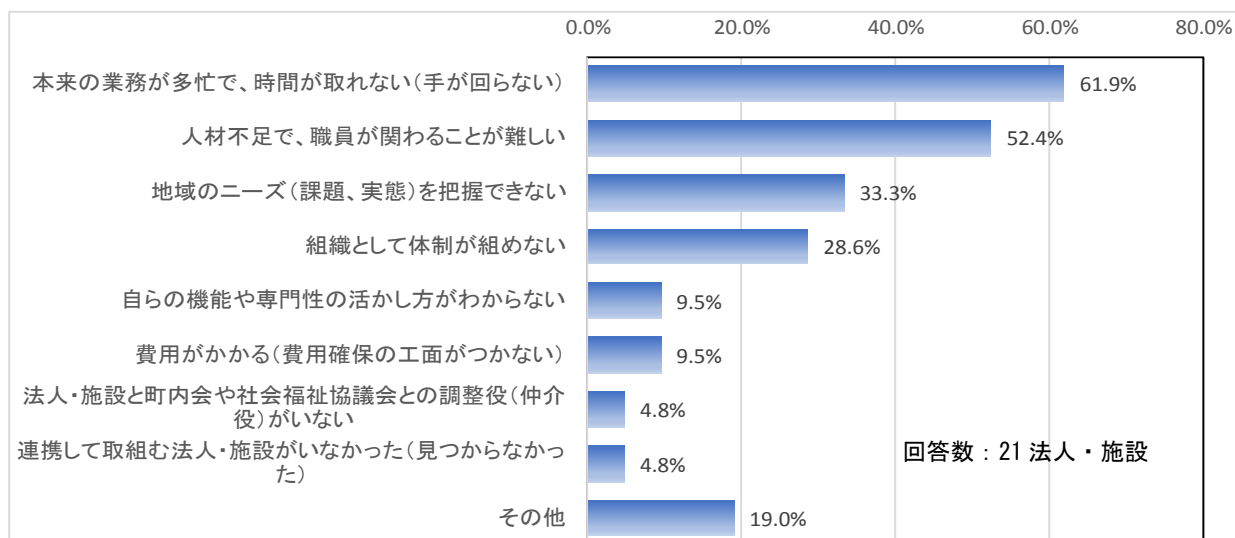
* 昨年度は、「認知症予防・介護予防」、「地域住民からの日常生活における困りごとの相談窓口」、「防犯パトロール等」は聞いていない。

(2) 地域貢献活動を行っていない理由

地域貢献活動を行っていない理由は、「業務が多忙」と「人手不足」がそれぞれ過半数を占めています。

地域貢献活動を行っていないと回答した21の法人・施設の理由をみると、「本来の業務が多忙で、時間が取れない（手が回らない）」が13（61.9%）、「人材不足で、職員が関わるのが難しい」が11（52.4%）、「地域のニーズ（課題、実態）を把握できない」が7（33.3%）、「組織として体制が組めない」が6（28.6%）等となっています。

図4 地域貢献活動を行っていない理由（複数回答）

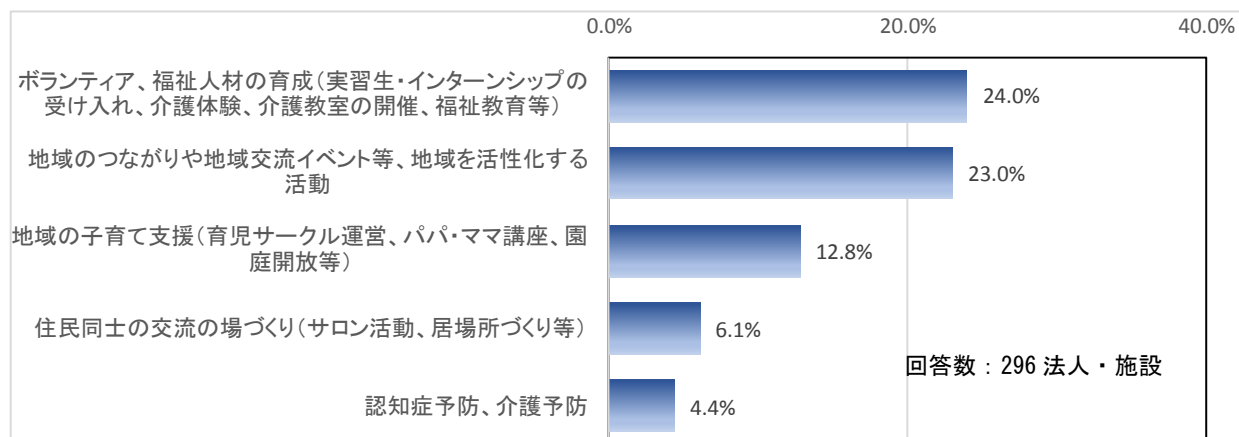


(3) 特に力を入れている活動

「ボランティア、福祉人材の育成」と「地域のつながりを作る活動」が多くなっています。

特に力を入れて取り組んでいる地域貢献活動は、「ボランティア、福祉人材の育成（実習生・インターンシップの受け入れ、介護体験、介護教室の開催、福祉教育等）」が71（24.0%）、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が68（23.0%）、「地域の子育て支援（育児サークル運営、パパ・ママ講座、園庭開放等）」が38（12.8%）と、独自に取り組んでいる活動とほぼ同様の傾向です。

図5 特に力を入れて取り組んでいる地域貢献活動（上位5位）



力を入れて取り組んでいる活動の具体的な内容(一部)

内容	活動頻度	対象層	一緒に行っている機関
●人材育成			
小学生を対象としたパンづくり教室や福祉講演会、職業体験等の活動を長いもので28年前から実施している。	年3回程度	小学生(一部中学生)	市立小学校他
乳児院および児童養護施設では、地域のボランティアを積極的に受け入れている。また、福祉人材育成のため、資格取得のための学生や里親候補者の実習受け入れを行っている。	学生実習 15名/年、里親実習数件	学生 他	
少子化に伴い兄弟等異年齢での生活や小さい子との関わりが希薄になっている昨今、中学生の体験学習の受け入れを行い、保育園で小さい子どもと関わる機会を作っている。	学校から依頼があった時	中学生、専門学校・短大・大学生	
近隣の小・中学生の体験保育等を通じて、保育という仕事・職業のイメージを伝えている。保育士を目指す高校生をアルバイト雇用し、養成学校時代も引き続き勤務してもらえるようにしている。	通年	小学生、中学生、高校生、専門学校、大学生	小学校、中学校、高校、保育士・栄養士の養成各学校
中学生が高齢者施設の基礎的な知識を学び、高齢者体験グッズを使って、高齢者になるとどのような身体変化が起こるのか実際に体験してもらう。それにより、高齢者への理解を深め、福祉への関心を持つきっかけを提供する。	年1回	中学生	私立中学校
●まちづくり			
実行委員会形式による「ふれあいまつり」の開催。コンサート演舞等の舞台発表、フリーマーケット、模擬店舗、絵画・書道等の美術工芸展示等を実施。	年1回	地域住民	地区連合自治会、単位自治会、老人会、近隣店舗、地区住民等
近隣の小学校から4年生を対象に体験をふまえた交流会とは別にキャンドルナイトを開催している。近隣住民や隣接する保育園児とのふれあい等、施設外からの参加を積極的に行っている。	年1回(各対象に対して)	小学生、保育園児	小学校、保育園
地域住民や子ども達を施設に招き、ピザ窯を使った料理等を楽しんでもらいながら交流してもらう。	年7回	高齢者、子ども	
子育て支援と地域交流を目的に、地域住民と一緒に実行委員会を立ち上げ、つながりをつくりながらまちを元気にしていく取り組みを行っている。地域飲食店19店舗、JA、市場、老人会、学童保育、文化人、民生・児童委員、主任児童委員、小学生から大学生等、約3,000人が参加。	年1回	地域住民	保育園、保育園父母の会、町内会、地区社協
地域の行事等に参加・協力する。各町内会、地区社協のサロン、運動講座、子育て広場、老人会等に参加。ボランティア派遣などを通じて常につながり、アンテナを持つ。地域交流カフェへの協力も行う。	開催時には毎回	地域住民、特に高齢者・認知症家族	町内会、民生委員・地区社協等
農園(3,000㎡)にて高齢者の「元気づくり」などを実施。	週3日	高齢者、障害者、子ども	
地区の思いやりネットワーク。一人暮らしや高齢者の多い市営団地で、孤立死を防ぐために、人と人のつながりづくりを行い、誰もが安心して元気に暮らせる団地を目指している。	毎日	当団地住民	連合町内会・民生委員児童委員協議会・地区社協、老人クラブ等
近隣小学校に働きかけ、世代間交流や高齢者との関わり方、認知症の勉強をする機会を提案。その後、4年生全員に対し、勉強会等を実施し、子ども達が学んだ事を基に自主的に高齢者の為に貢献出来る事はないか考え、催し物を企画・実践した。今後も総合学習授業の一環として半年ごとに開催を継続し、将来の福祉人材育成に努める。	半年	小中学生	小学校
保護者や地域向けに保育園の給食食材の販売。また、親子の週末自然活動を支援するセカンドプレイス作り。環境学習農園化支援等。	月2回程度	地域住民	自然農法チーム
生活介護事業所を利用して、定期的に地域住民の方々と児童養護施設の子どもの交流を招き、料理教室を主催。職員が講師役となっている。また、障害当事者、地域住民の方々と、健康体操サークルを作り、施設職員がボランティアとして参加し、この活動は17年間続いている。	料理教室年4～6回、健康体操月1回	地域住民、障害者	地域ケアプラザ、障害者地域活動ホーム、町内会
●子育て支援			

ベビーマッサージ公開講習会の開催。	年4回	未歩行乳児と保護者	
園庭開放(年6回)、乳児リトミック(年8回)、半日保育園体験(年6回)、乳児講座「離乳食」、「ベビーマッサージ(年2回)」、救命救急法講座、サッカー教室。	月2～3回	保育園・幼稚園に通っていない乳児と保護者	
毎月第2・第4木曜日の午後に地域ケアプラザのボランティアルームと多目的ホールを小学生対象に開放。地域住民の協力を得て、「おもちゃ博士」がおり、子どもに工作等を教えている。	月2回	小学生	地区社協、連合自治会
保育園に行っていない乳幼児や保護者を対象に遊びや交流の場を提供したり、子育ての講座を開催している。また「赤ちゃんの駅」(授乳やおむつ交換の場所)を開放している。その他、赤ちゃんサロンの場等を提供している。	月18回	就学前の親子等	
●交流・居場所			
様々な地域サロン活動を月1回程度行い、地域の人々を対象に交流を深めている。	週1回～月1回	地域住民	自治会、成年後見に関する専門機関等
当法人が運営しているグループホーム敷地内にある足湯を利用していただき、温まりながら音楽療法や介護保険の利用の仕方など気軽に相談を受けている。	2か月に1回	地域住民	地域ケアプラザ
自宅での入浴に不安のある高齢者の方に、当施設の入浴設備を利用して見守りにて安心して入浴していただく。入浴後に、飲み物・お茶菓子・カラオケ等をお楽しみいただき、交流を深める。	月1回	地域在住の高齢者	
男性ボランティアの育成をめざし、地域ケアプラザの生活支援・地域活動交流コーディネーターが合同で食事サービスを立ち上げた。	月1回以上	高齢者	地域ケアプラザ
施設内でコーヒーコーナーを開催。施設職員がボランティアと共に運営。施設入居者及びご家族、地域住民が参加し、つながりの場として提供している。	月1回	入居者、地域住民	自治会、地域ケアプラザ
●健康づくり			
トランスフィットネス事業:体を動かすことでストレスを解消し、健康増進につなげる。	毎日	高齢者、障害者、児童	
自治会からの要望により、高齢者健康維持のために体操教室を定期的に開催。また、要望に応じて講義形式で健康についての説明とアドバイスを実施。	月1回	高齢者	
地域の特徴として、団塊の世代が多い、エレベーターの無い階段住宅(団地)が88棟あることから、①健康チェックの日と②体操を実施。	①月1回、 ②月5回	前期高齢者	
●次世代育成			
コミュニティーサロン:営業時間 月～金、10時～20時、提供サービス:昼食、夕食、学習支援(月・水・金)、子どものためのイベント等を近隣小学校や自治会と連携して実施。効果測定スケールを横浜市、民間研究所と共に開発中。		小学生、中学生	民間研究所
「〇〇食堂」として地域住民(子ども中心)に、月1回土曜日に昼食と居場所を安価で提供している。地域でネットワークを形成し、定期的な昼食の提供を目指している。	月1回	主に地域の子ども	近隣の母子生活支援施設、町内のボランティア団体、地域ケアプラザ、区社協、大学等
地域の小学生・中学生を対象にした勉強会。学習支援を中心に地域の小中高校生の交流、多世代交流として学習だけでなく地域のこと、将来のこと等、参加する人達の様々な学びの場となっている。	月2回、各休暇期間(春、夏、冬)	エリアの小学生、中学生、高校生	小学校、中学校、高校等
毎月第3土曜日 12時から13時に「こども食堂」を開催。子どもに限らず誰でも参加可能。子ども達の居場所となり、食育にもつなげたり、学習支援にもつなげていきたい。	月1回	地域住民	
●高齢者・障害者支援・生活支援			
お誕生会を開催。利用者と地域の高齢の方をお招きして昼食に行事食を召し上がっていただく。また、誕生月の方に一言いただきながら、お祝いの花束を贈呈し、催し物を実施している。	2か月に1回	一人暮らし高齢者	地区民児協

「一人ぼっちにさせないために」チェックリストを作成。	月1回	一人暮らしの高齢者	地域活動諸団体、地区社協、地域包括支援センター等
高齢者と子どもの見守り。高齢者の見守りパトロールには警察犬も参加している。	年2回パトロール	高齢者・子ども	区社協、地域ケアプラザ、連合町内会、地区社協、区役所
買い物代行を通じて高齢者の安否確認・見守りを行っている。配達訪問時に不在の時はケアマネジャー等につなぎ緊急事態か連携を取る。	週3回	主に高齢者	
高齢者の食事会(サロン)へ当法人の送迎車を使用してもらい、ボランティアのドライバーに移送支援をしてもらう。	年8回	高齢者	地区社協、区社協
買い物と見守り支援について考え、移動スーパーのルートに見守り機能を付加した。	随時	高齢者	地域ケアプラザ
地域の一人暮らし高齢者が食事会に行く際、デイサービス送迎車とドライバーによる移送支援を実施。	今年2回	高齢者	地区社協、特別養護老人ホーム
一人では買い物に行けない虚弱な高齢者を、近隣の特別養護老人ホームの送迎車を借りて、介助ボランティアとともに、近隣の百貨店へ買い物に行く。	年に3～4回程度を予定	要支援の地域高齢者	連合自治会、地区社協、特別養護老人ホーム
地域の高齢者のための困り事を支援するボランティア団体の後方支援(事務局)。団体の活動は、包丁研ぎや家具類の修理、電球交換、障子・襖の張替、庭木の剪定等。	月1回、依頼に応じて活動	70歳以上の高齢者、単身者	ボランティア団体
地域住民による助け合いのボランティアグループが存在しない連合区域内を対象として、庭木の草むしり、電球の取り換え等登録してくれたボランティアに依頼して行っている。	2か月に1回	一人暮らし高齢者、高齢者	登録してくれた地域住民ボランティア
●相談・情報提供			
子育てに悩んでいる母親や介護サービスに関する相談窓口を開催している。	半年に1回	地域住民	町内会
地域の社会福祉法人と種別を超えてネットワークを結び、区社協・地域ケアプラザ・地区社協とつながり、地域の困りごとをワンストップで受け止める協力をしている。	相談があれば随時	地域住民	行政、区社協、地区社協、地域ケアプラザ等
認知症の周知について、地域ケアプラザや町内会館で寸劇やビデオを観ながら、病気の理解や日頃の声掛けの方法を学ぶ活動をしている。	年に3回、要望があれば随時。	地域住民	自治会長や民生委員、町内のシルバークラブ等
障害児者や高齢者のリハビリテーションに関わる情報を、様々な形で発信する体験型のイベントを行っている。	年1回	地域住民	行政、民間事業所
●生活困窮者支援			
生活困窮者への物品支援及び金銭支援。	年3～4回	成年及び高齢者	
●防犯			
自治会と協力し、月1回職員2名が(2時間程度)自治会所有の車両にて、治安維持のために防犯パトロールを実施している。	月1回	地域住民	
地域の防犯パトロール活動を通して、地域住民の安全と安心を守るとともに住みよい街づくりに貢献をする。高齢者施設の他、地域ケアプラザ、障がい者施設の送迎車輛に青色回転灯を装備し、防犯や交通安全、認知症高齢者徘徊時の発見協力など幅広く活動を行う。	毎日	区域の住民	地域ケアプラザ、区社協、区役所、神奈川県警察署
●就労支援			
ユースプラザと連携し、引きこもりのある若者の就労支援に繋げるための訓練の場としてデイサービスを活用している。	毎週3人程度	20歳代の未就労者	ユースプラザ

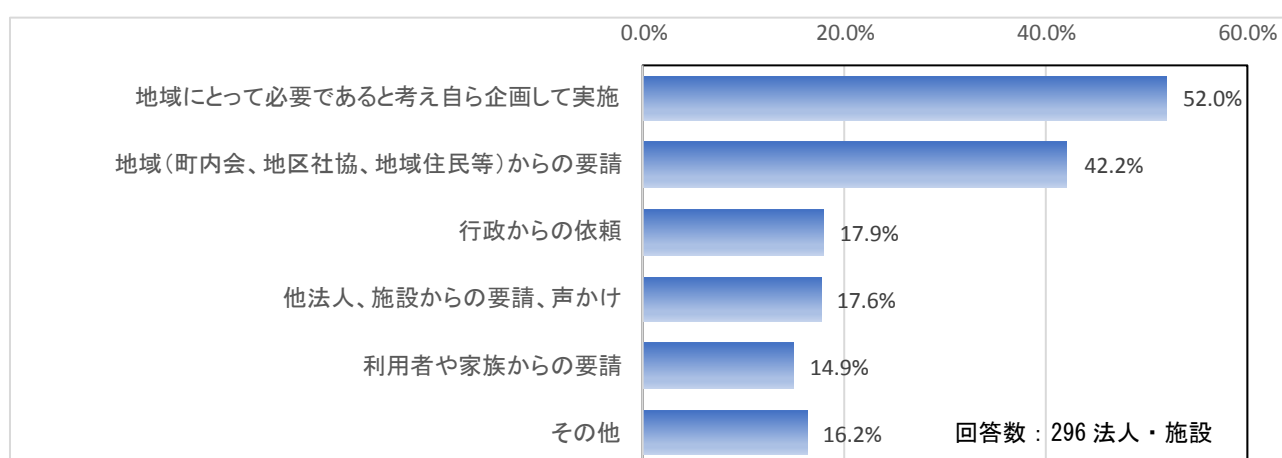
以下、(4) から (6) は、特に力を入れて取り組んでいる活動についての回答です。

法人・施設は、地域貢献活動の必要性を強く感じており、「場」を提供したり、専門性の高い「人材」を地域に派遣する活動を行う法人・施設が多くなっています。また、今後も継続する意向が高く、今まで以上の活動を展開したいと考える法人・施設も 4 割ほどいます。

(4) 活動を始めた経緯(理由)

特に力を入れて取り組んでいる活動を始めた経緯(理由は)は、「地域にとって必要であると考え自ら企画して実施」が 154 (52.0%) で、「地域(町内会、地区社協、地域住民等)からの要請」の 125 (42.2%) を上回っています。自ら考え実践しており、法人・施設の前向きな姿勢がうかがえます。

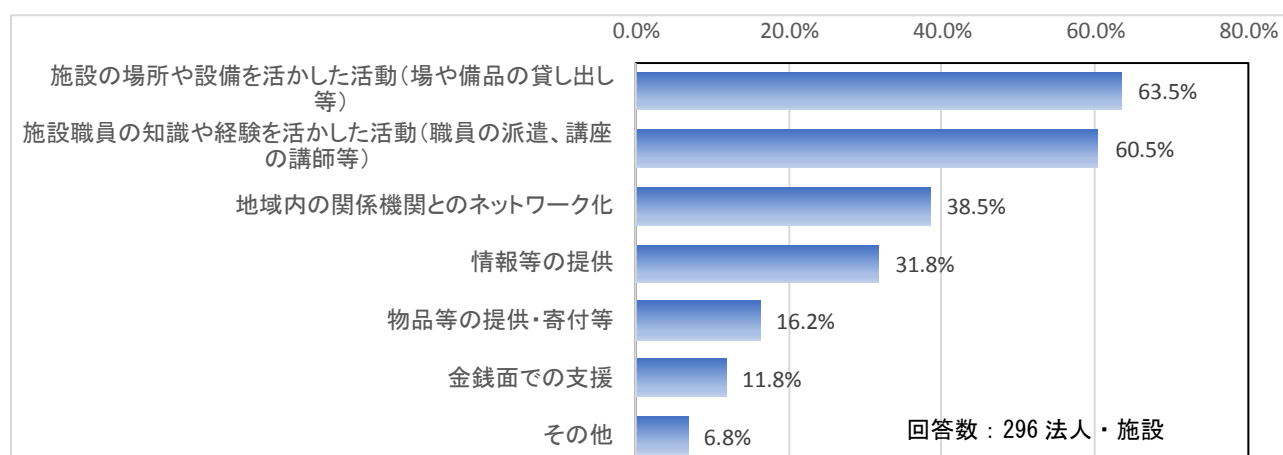
図 6 特に力を入れて取り組んでいる活動を始めた経緯(理由)(複数回答)



(5) 活動方法

特に力を入れて取り組んでいる活動の方法は、「施設の場所や設備を活かした活動(場や備品の貸し出し等)」が 188 (63.5%)、「施設職員の知識や経験を活かした活動(職員の派遣、講座の講師等)」が 179 (60.5%) と、この 2 つの回答が特に多くなっています。「場」と「(専門的な)人」の提供が中心となっています。

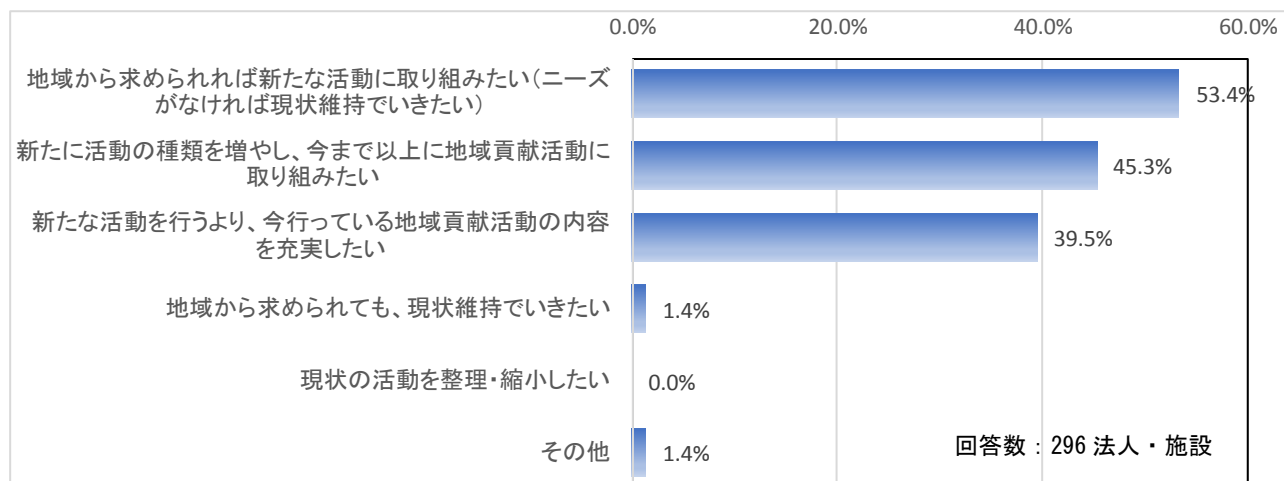
図 7 特に力を入れて取り組んでいる活動の方法(複数回答)



（６）今後の地域貢献活動の継続意向

特に力を入れて取り組んでいる活動の今後の継続意向は、「地域から求められれば新たな活動に取り組みたい（ニーズがなければ現状維持でいきたい）」が 158（53.4%）、「新たに活動の種類を増やし、今まで以上に地域貢献活動に取り組みたい」が 134（45.3%）、「新たな活動を行うより、今行っている地域貢献活動の内容を充実したい」が 117（39.5%）となっています。全体として「継続意向は高い」と考えられます。

図 8 特に力を入れて取り組んでいる活動の継続意向（複数回答）



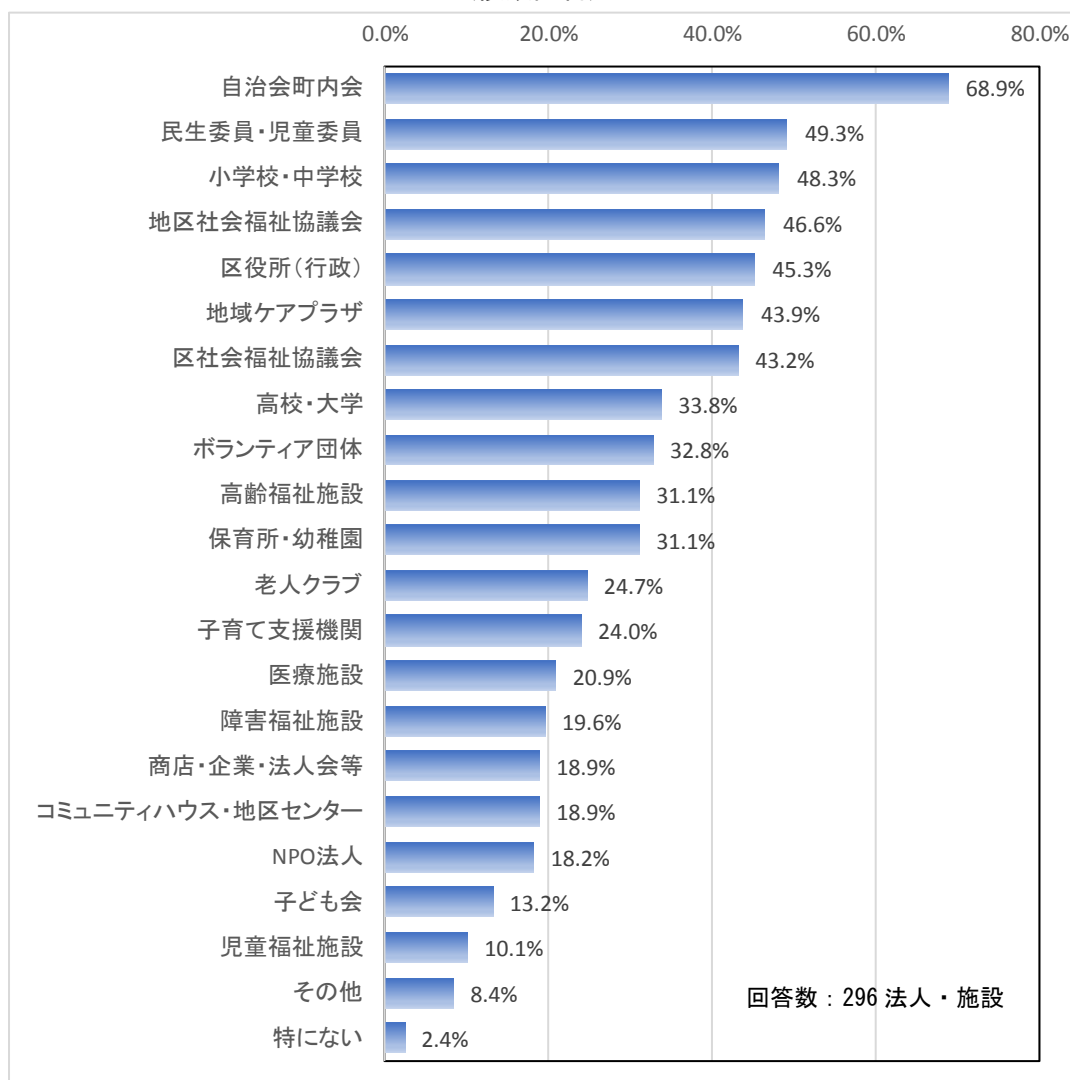
3. 現在、連携・協力している団体・機関

法人・施設は「自治会町内会」、「民生委員・児童委員」、「地区社会福祉協議会」とのつながりが強く、また「小学校・中学校」とも 4 割強が連携しています。次世代育成という視点からも、法人・施設の役割が期待されます。

地区社会福祉協議会とは、約 4 割の 138 法人・施設が連携しており、「地域活動を行う上で重要なパートナーと考えている」法人・施設が多くなっています。

法人・施設が地域貢献活動を行う際に、現在、連携・協力している団体・機関は、「自治会町内会」が 204 (68.9%) と最も多く、以下「民生委員・児童委員」146 (49.3%)、「小学校・中学校」143 (48.3%)、「地区社会福祉協議会」138 (46.6%) と続いています。

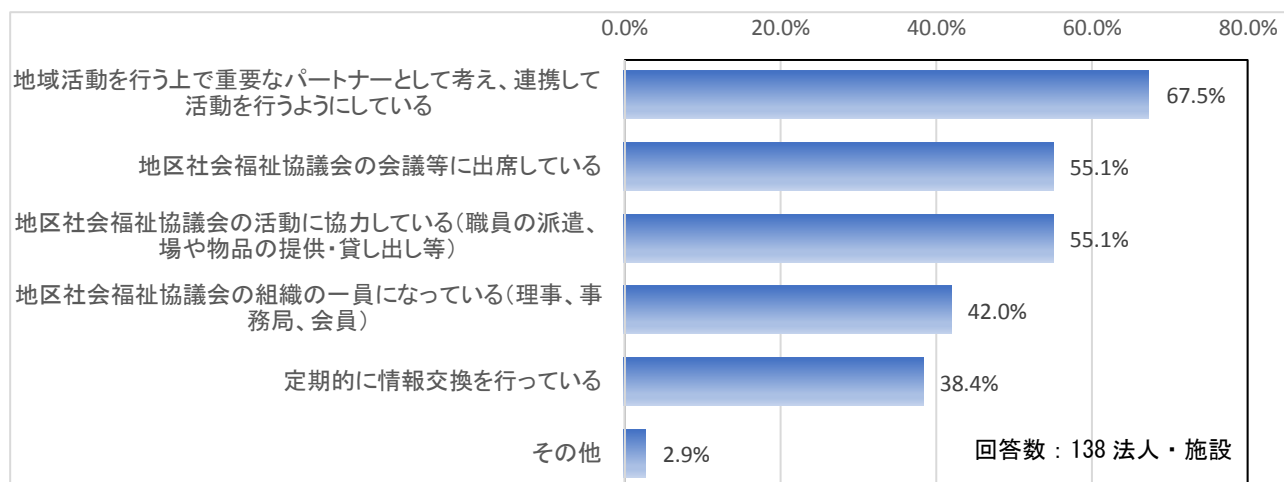
図 9 法人・施設が地域貢献活動を行う際に、現在、連携・協力している団体・機関
(複数回答)



（１）地区社会福祉協議会との関わり

地区社会福祉協議会と連携・協力している法人・施設 138 に関わりを聞いてみると、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動を行うようにしている」が 89 (67.5%) と最も多くなっています。

図 10 地区社会福祉協議会との関わり (複数回答)



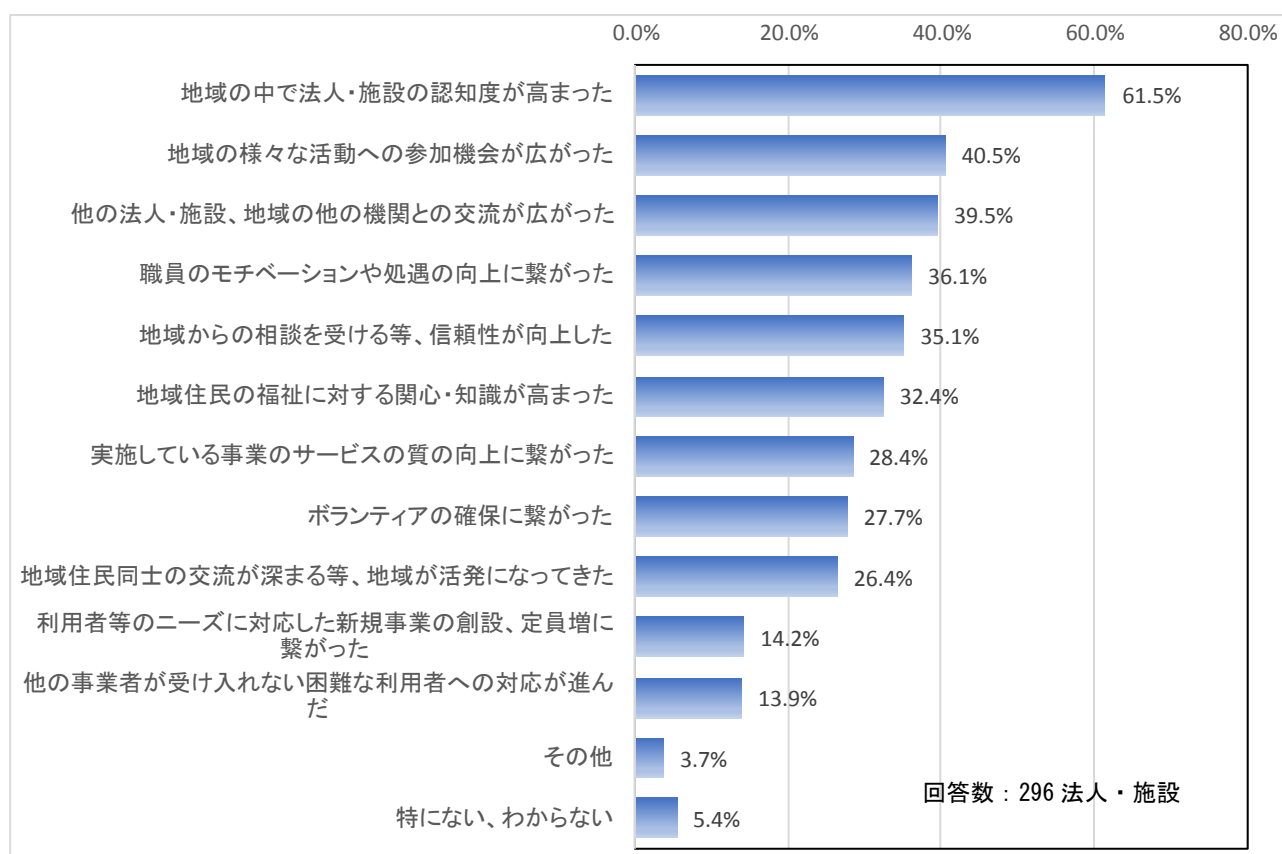
4. 地域貢献活動を行ったことによる成果

地域貢献活動を行ったことの成果として、「地域の中での法人・施設の認知度が上がった」が多く挙げられています。

法人・施設が地域貢献活動を行ったことによる成果については、「地域の中で法人・施設の認知度が上がった」が182（61.5%）と最も多く、以下「地域の様々な活動への参加機会が広がった」が120（40.5%）、「他の法人・施設、地域の他の機関との交流が広がった」が117（39.5%）等と続いています。

法人・施設の存在を知ってもらえることで、さらに参加機会が増えるという相乗効果が期待されます。また「職員のモチベーションや処遇の向上に繋がった」という効果も3割強の法人・施設で評価しています。「本来の業務が多忙で、時間が取れない（手が回らない）」、「人材不足で、職員が関わることが難しい」という理由で地域貢献活動に参加できない法人・施設がありましたが、むしろ参加することで職員のやる気向上につながるとことも重要な視点と思われます。

図 11 地域貢献活動を行ったことによる成果（複数回答）



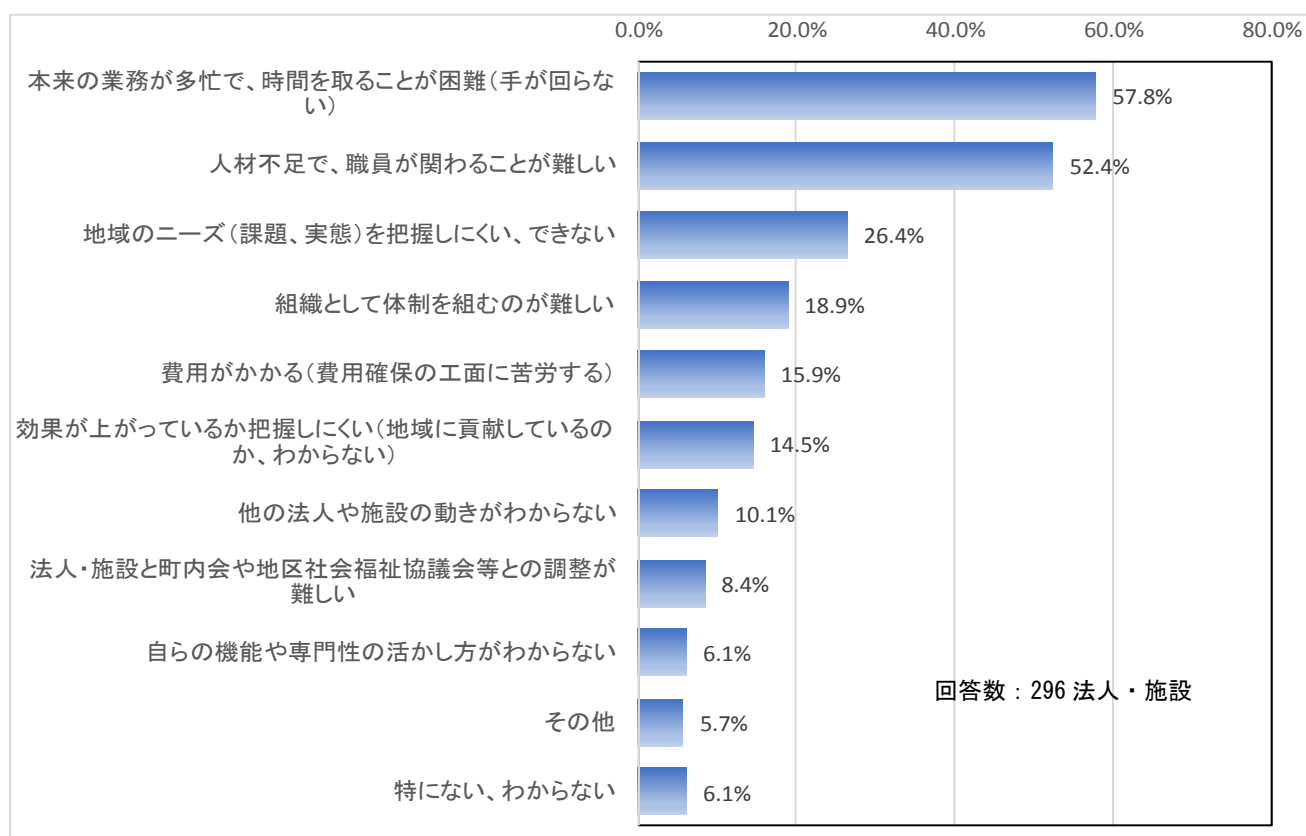
5. 地域貢献活動を行う上での課題

地域貢献活動を行う上での課題は、「業務の多忙」と「人材不足」が多く、本来業務の運営と人材確保と地域貢献活動をバランスよく行っていくことが期待されます。

法人・施設が地域貢献活動を行う上での課題については、「本来の業務が多忙で、時間を取ることが困難（手が回らない）」が171（57.8%）と最も多く、以下「人材不足で、職員が関わるのが難しい」が155（52.4%）、「地域のニーズ（課題、実態）を把握しにくい、できない」が78（26.4%）等と続いています。

地域貢献活動を特に行っていない法人・施設の理由とほぼ一致した回答となっています。本来業務の運営と人材確保という課題はありますが、地域の認知が広がるという効果もありますので、いかにバランスをとっていかかが今後の法人・施設が地域と一体となって地域貢献活動を行っていく上での鍵になると思われます。更に、今後は法人・施設と地域との仲介役となる役割も必要になってくると考えられます。

図 12 地域貢献活動を行う上での課題（複数回答）

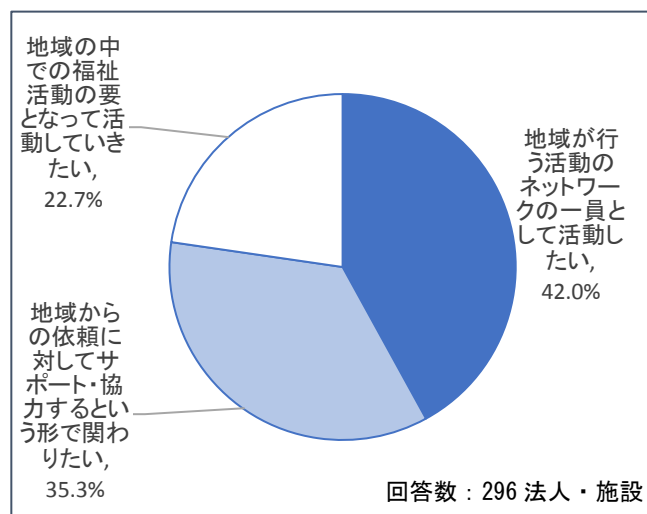


6. 地域貢献活動を行う上での地域との関わり方

「地域が行う活動のネットワークの一員として活動したい」と考える法人・施設が、4割を超えています。

地域貢献活動を行う上での地域との関わり方について、「地域が行う活動のネットワークの一員として活動したい」が133（42.0%）、「地域からの依頼に対してサポート・協力するという形で関わりたい」が112（35.3%）で「地域の中での福祉活動の要となって活動していきたい」は72（22.7%）となっています。

図13 地域貢献活動を行う上での地域との関わり方



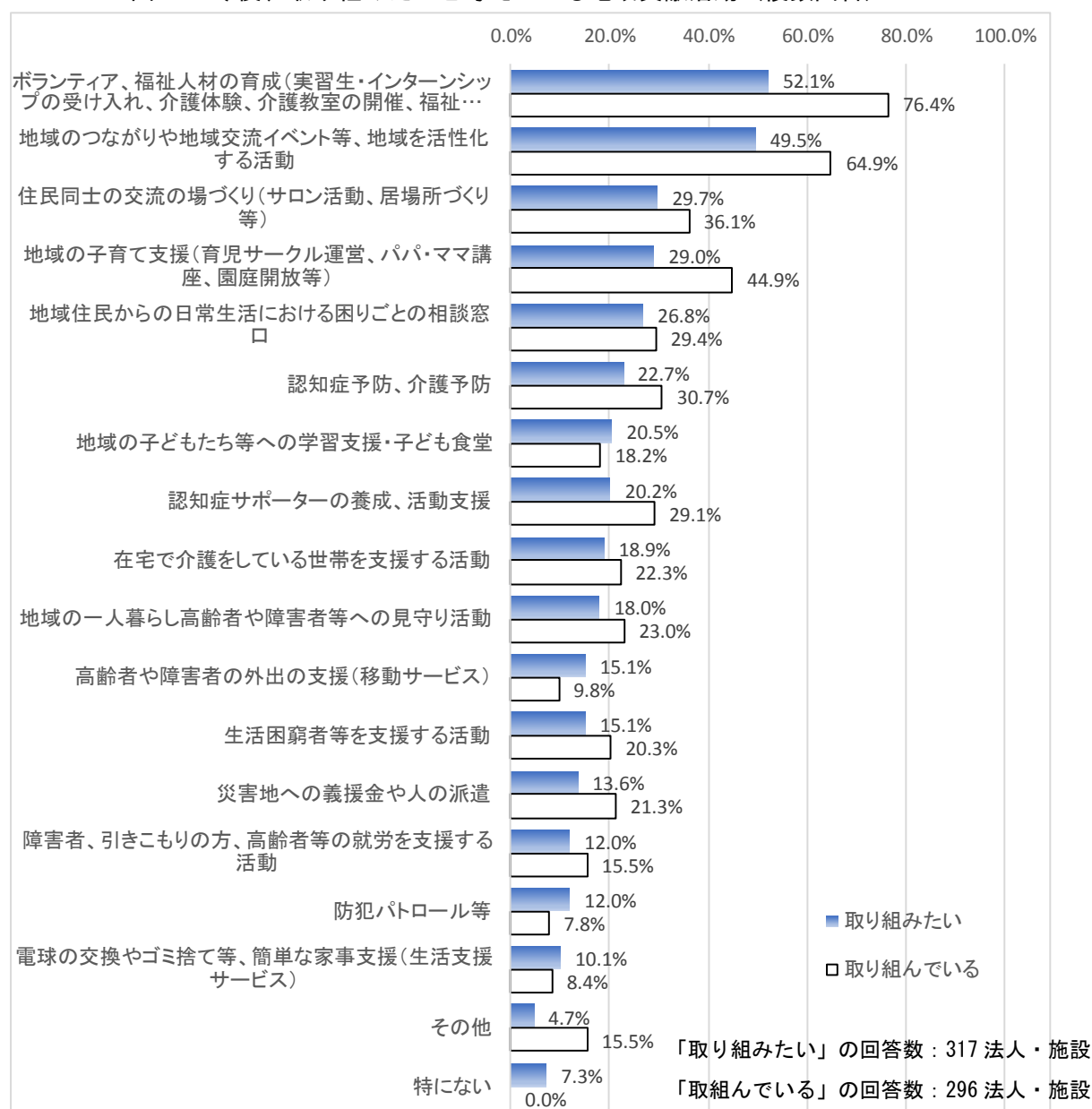
7. 今後、取り組みたいと考えている地域貢献活動

今後、取り組みたい地域貢献活動として、「地域の子どもたち等への学習支援・子ども食堂」や「高齢者や障害者の外出の支援（移動サービス）」の活動に関心が高くなっています。

今後、取り組みたいと考えている地域貢献活動は、「ボランティア、福祉人材の育成（実習生・インターンシップの受け入れ、介護体験、介護教室の開催、福祉…）」が 165（52.1%）と最も多く、以下「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が 157（49.5%）、「住民同士の交流の場づくり（サロン活動、居場所づくり等）」が 94（29.7%）、「地域の子育て支援（育児サークル運営、パパ・ママ講座、園庭開放等）」が 92（29.0%）等と続いています。

現在、取り組んでいる地域貢献活動とほぼ同様の傾向ですが、現在、取り組んでいる活動の割合よりも多くなっているのは、「地域の子どもたち等への学習支援・子ども食堂」、「高齢者や障害者の外出の支援（移動サービス）」、「防犯パトロール等」、「電球の交換やゴミ捨て等、簡単な家事支援（生活支援サービス）」です。

図 14 今後、取り組みたいと考えている地域貢献活動（複数回答）



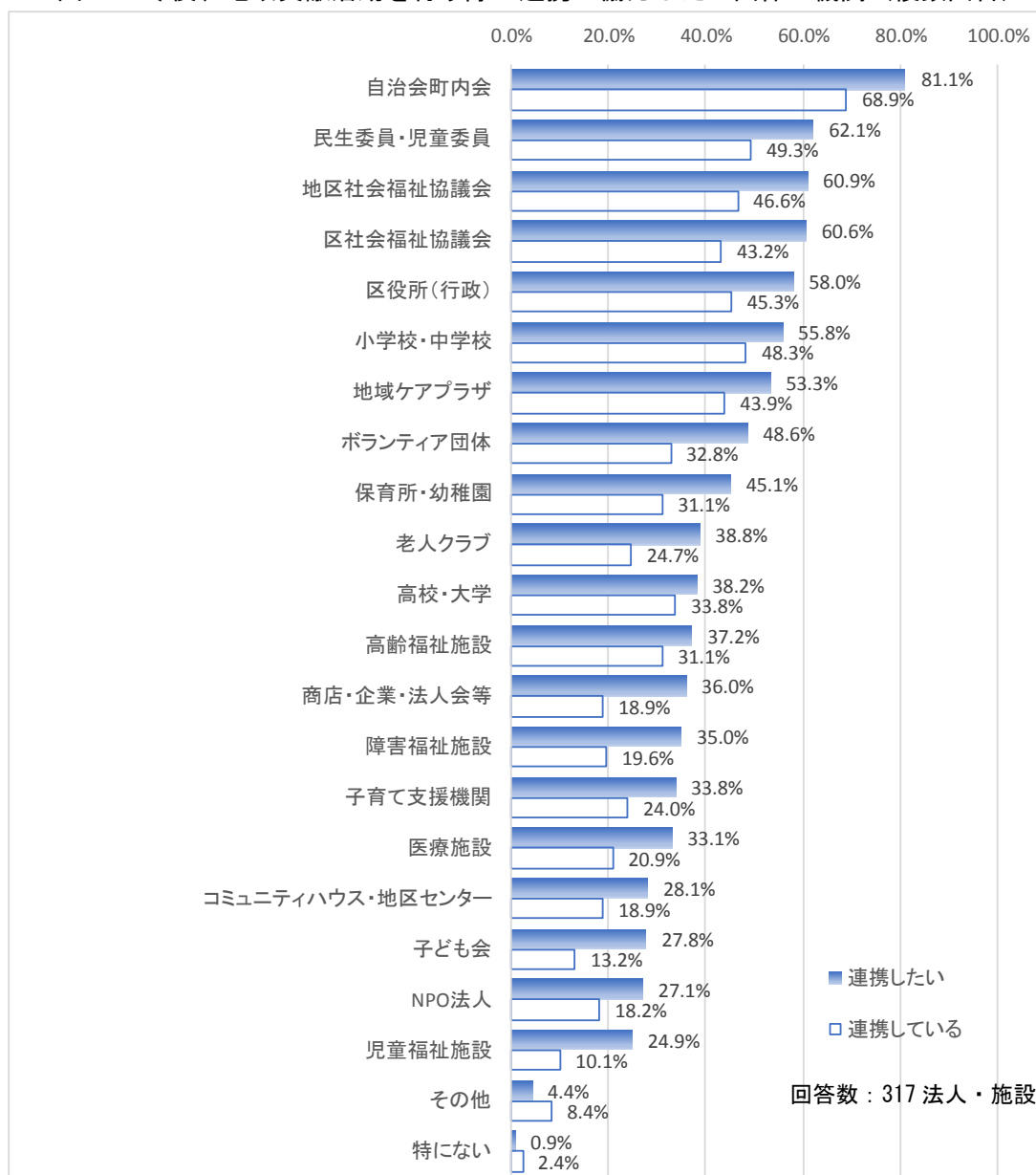
8. 今後、連携・協力したい団体・機関

今後、地域貢献活動を行う際には、「自治会町内会」、「民生委員・児童委員」、「地区社会福祉協議会」、「区社会福祉協議会」等と連携・協力したいと考えていますが、現在よりも様々な団体・機関と連携していきたいという意向が高くなっています。

地区社会福祉協議会については、約6割の193法人・施設が今後も連携したいと回答しており「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動を行いたい」という意見が7割強となっています。

今後、地域貢献活動を行う際に連携・協力したい団体・機関は、「自治会町内会」が257（81.1%）と最も多く、以下「民生委員・児童委員」が197（62.1%）、「地区社会福祉協議会」が193（60.9%）、「区社会福祉協議会」が193（60.6%）等と続いています。すべての項目において、現在連携・協力している割合よりも多くなっており、今後法人・施設が様々な団体・機関と協働して地域貢献活動を行いたいという意向が強いことがうかがえます。

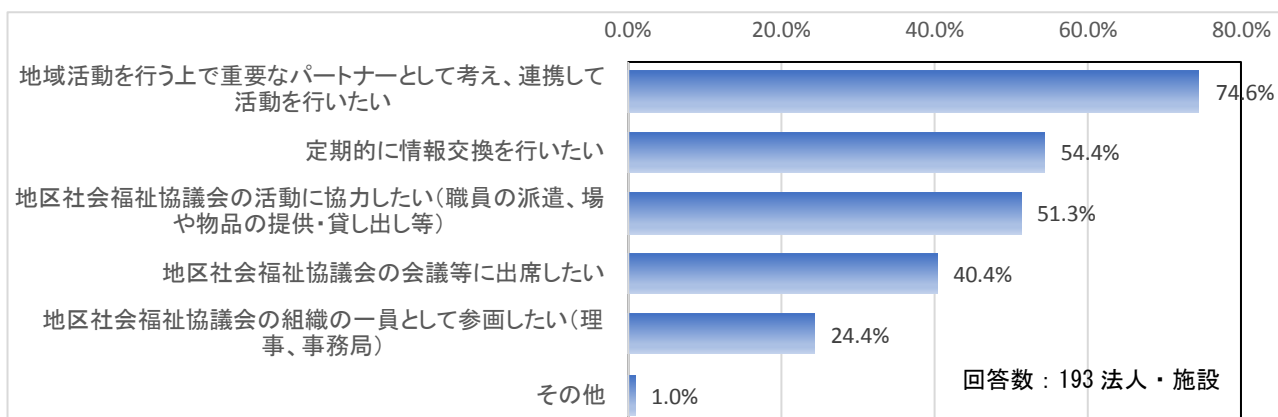
図15 今後、地域貢献活動を行う際に連携・協力したい団体・機関（複数回答）



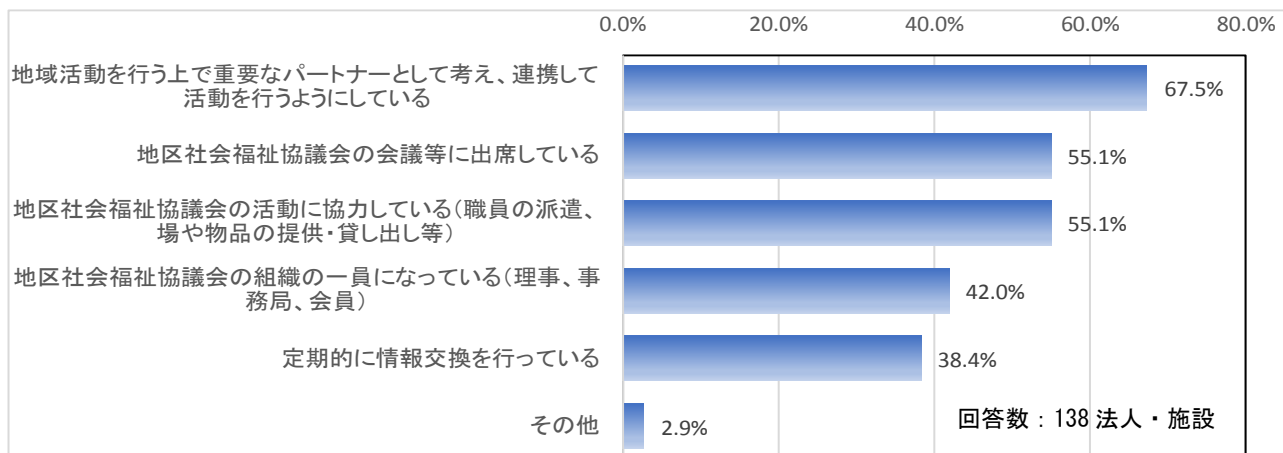
（１）地区社会福祉協議会との今後の関わり

「地区社会福祉協議会」と連携・協力したいと回答した 193 の法人・施設に地区社会福祉協議会との今後の関わりを聞いてみると、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動を行いたい」が 144（74.6%）と最も多くなっています。現在、地区社会福祉協議会と連携・協力している法人・施設の関わりにおいても、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動を行うようにしている」が 67.5%と最も多く、しかもその割合は増えています。また「定期的に情報交換をしたい」も大きく増えています。

図 16 地区社会福祉協議会との今後の関わり（複数回答）



＜参考 3（図 10） 法人・施設の地区社会福祉協議会との関わり（複数回答） 再掲＞



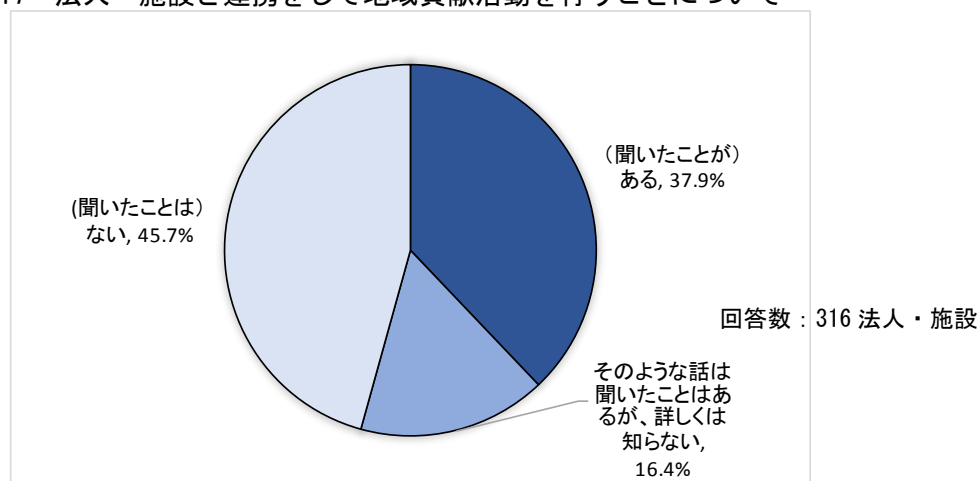
9. 他法人・施設との連携

他法人・施設と連携して、地域貢献活動を行うことについて、約3割は「すでに参加」、約半数が「参加したい」と回答しており、他法人・施設と連携を希望する意向がうかがえます。また、連携の取り方としては、約半数が「地域の課題やテーマごとに他法人・施設と連携していきたい」と考えています。

(1) 現在、他法人・施設と連携をして行う地域貢献活動の認知

例えば、施設の送迎車が空いている時間帯に、地域の高齢者の買い物等の移動のサービスに施設間で連携して運行する等、他法人・施設と連絡会を立ち上げたり、ネットワークを組みながら取り組む地域貢献活動については、「(聞いたことが)ある」が120(37.9%)、「そのような話は聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が52(16.4%)となっています。

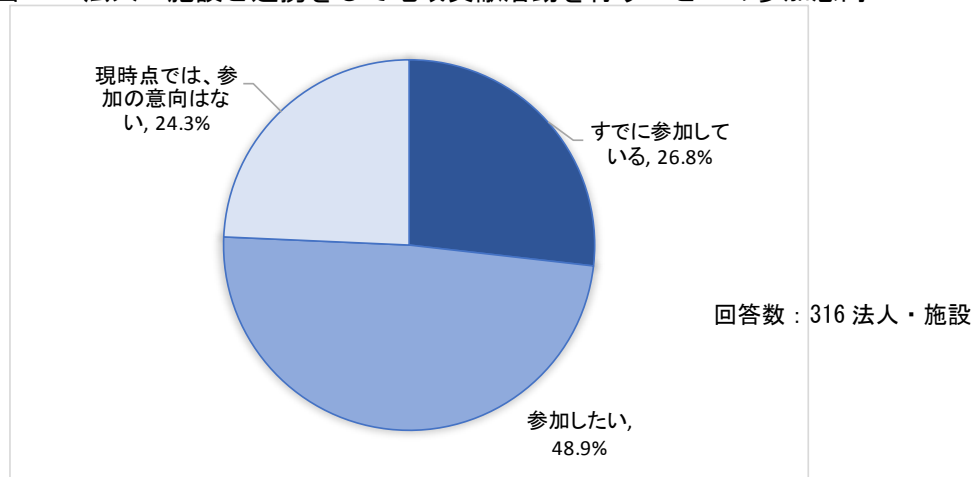
図17 法人・施設と連携をして地域貢献活動を行うことについて



(2) 他法人・施設と連携をして地域貢献活動を行うことへの参加意向

今後、他法人・施設と連携をして連絡会を立ち上げたり、ネットワークを組みながら地域貢献活動を行っていく取り組みに対して、「すでに参加している」が85(26.8%)、「参加したい」は155(48.9%)と約半数を占めています。

図18 法人・施設と連携をして地域貢献活動を行うことへの参加意向



○既に行っている他法人・施設と連携した地域貢献活動（一部）

●講座・研修会等の開催

- ・区内の公立保育所が要となり、合同育児講座のサポート、当該園児と他園との交流等。
- ・同一法人内の他施設と共同で専門職をケアプラザや他施設に派遣し、研修会や介護教室を開催。
- ・未就園児の保護者に向けた「出張育児講座」の開催。
- ・地域ケアプラザと総合病院の医師によるターミナルケア及びその他医学セミナー共催。
- ・複数法人で職員の派遣交流研修、勉強会、親睦会等。

●定期的な会合・委員会・連絡会等の開催

- ・近隣の企業・団体等との定例ミーティング。
- ・「社会福祉法人と地域つながる連絡会」の運営。
- ・認知症サポート連絡会立ち上げ。
- ・障害者の余暇活動支援事業の実行委員会の開催。

●イベント等の共同開催、余暇活動支援

- ・地域交流のお祭りに出店。
- ・地域の子育て支援サークルや他園と協力し子育てイベントを開催。

●外出・買い物支援（移送サービス）

- ・施設の送迎車による地域住民の買い物援助。
- ・他法人と共同でサロンの送迎サービス。
- ・近隣の地域ケアプラザと連携し、地域の外出困難な高齢者の外出援助。

●食堂、居場所の開設

- ・地域の子どもたちの居場所・学習支援。
- ・他法人、病院、ケアプラザと連携して地域食堂の立ち上げ。
- ・認知症カフェの開催。

●場の開放や物品等の貸出

- ・施設設備を使用できる時間帯で、物品や場所を提供し、憩いの場所を提供。
- ・地域子育て連絡会（年2～3回）にて情報提供、外遊びの回（年3回）開催、道具の貸出。

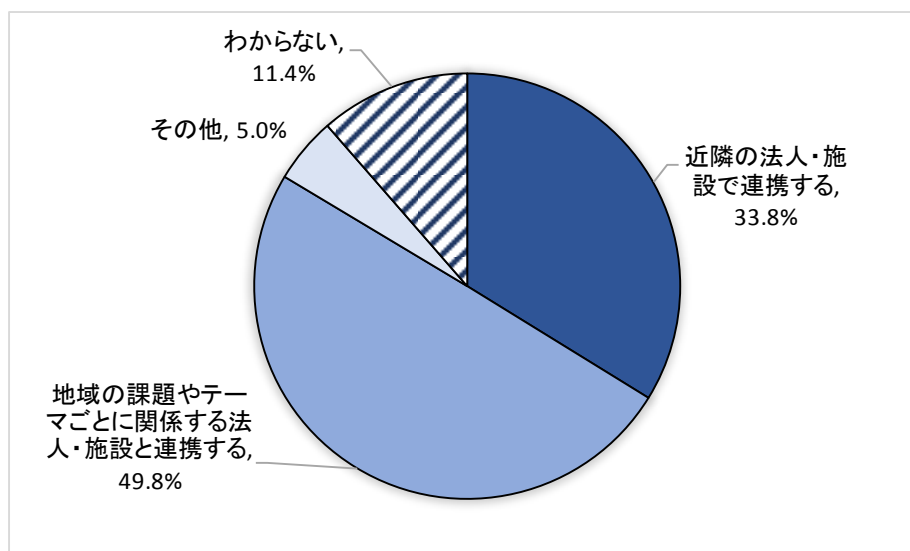
●防犯、防災

- ・防犯パトロール隊の実施。
- ・消防署とともに大規模高齢者施設ネットワークの作成。

(3) 他法人・施設との望ましい連携の取り方

他法人・施設との望ましい連携の取り方としては、「地域の課題やテーマごとに関係する法人・施設と連携する」が 158 (49.8%) で、「近隣の法人・施設で連携する」の 107 (33.8%) と合わせると、法人・施設間連携の意向は約 8 割となります。

図 19 他法人・施設との連携の望ましい取り方



回答数 : 316 法人・施設

10. 今後の地域貢献活動についての考え等(自由回答)

●地域の繋がりや交流・イベント、地域の活性化に関すること

- ・年に数回、施設独自で親子で楽しめるイベントを企画し、気軽に育児相談等立ち寄れるような雰囲気を作っていくと共に地域の中で施設の認知度を上げていきたい。
- ・平日の放課後、当地域ケアプラザの情報ラウンジに遊びにくる子ども達と近隣の高齢者とのマッチング（宿題を見てくれたり、昔遊び遊びを教えたり）を検討したい。
- ・利用者対象に行っている事業、例えば介護予防研修や体操をご利用者と地域の方が一緒に楽しめるものにするなど、地域の方にも親しみやすい施設を目指していきたい。

●生活支援、外出支援、見守りに関すること

<子育て支援>

- ・一人親世帯が帰宅するまでの間に子の入浴・洗濯、食事の提供を行う。
- ・保育を中学生くらいまで継続する。学童保育などで他の場所に移らなくてもすむようなイメージ。

<高齢者支援>

- ・通所介護事業の浴室を活用し、サービス利用に至らない（または困難な）方に入浴機会を提供する。
- ・介護保険サービスではまかなえないような支援。
- ・在宅で一人で生活している高齢者の援助。一人暮らしの方を主にパトロール。

<移動支援>

- ・高齢者や障害者の外出の支援。活動に参加したくても参加できない状況があるため、地域にある福祉施設の車両等を利用して、高齢者等のお出かけ支援を、施設間で連携を図り組みたい。
- ・地域主体のサロン活動の送迎支援、買い物ツアーの実施。

●住民同士の交流の場づくり(場の開放)に関すること

<施設内の場や園庭等の開放>

- ・夜間のデイルームの無料貸し出し。空き貸室を地域の子どもの学習ルーム、授乳室として利用してもらいたい。
- ・施設内の地域交流室などを開放し子ども達の学習・学校行事関係のイベントスペースとして活用してもらいたい。
- ・地区社協などが主催するサロンの活動の幅が広がるように、施設設備の開放を行いたい。

<施設内の場を活用したサロンなどの開設>

- ・地域の人、各々が身近で気がねなく集える場（サロン）があり、ある時は子どもが、ある時は高齢者が認知症サポーター養成講座や趣味の集まり等を行えるような地域になる支援ができればいい。
- ・児童福祉施設ではあるが、地域に開き、必要な方の居場所となりたい。多様な方と接するコミュニティーが子どもたちを育くむ環境として必要であると考え。
- ・親子でゆったりと過ごせる、絵本やおもちゃ常設のカフェのような居場所。
- ・多世代が同じ場所で居場所を共有することで、安心と安全、生きがいを感じる内容のプログラムを実施したい。食を中心とした楽しい時間と空間の創生。
- ・地域に参加できていない男性の活動、集いの場づくりのために、自治会、町内会、地区社協等と協力し取り組む。

<食を提供する場>

- ・エリアの施設、病院等との連携による「地域食堂」を実施し、対象を地域の方どなたでも来られる場とし、定期的に開催したい。またそこからの、学習サロンの充実にもつなげたい。

●地域のネットワークづくり、連携の仕組み、つなぎ役に関すること

- ・高齢者を中心に障害者、子どもへのゆるやかな見守り活動を、地域のお店と共に行いたい。
- ・関係性を取り結べるかが重要であり、一方通行ではなくその活動によって相互に豊かさの方向に向かうことが大事。そのための「仕掛け」「仕組み」「企て」が何よりも重要だと考える。
- ・初めはケアプラザが事務局となり、ボランティアの方々と移動支援が必要な方々とのマッチングを行う。継続していくためのシステムを区社協や地区社協等と連携して行っていく。
- ・地域の子育て支援のネットワークが活発になるようなコーディネートをしたい。
- ・法人単体では対応しきれない課題でも、ネットワークの仲間の力をフル活用し、地域の福祉課題をチームで素早く解決出来る連携システムで、地域の一員として地域を支える活動をしたい。

●人材育成（ボランティア育成・活用、実習生の受け入れ）に関すること

- ・現在学校や区社協と連携し、個別支援級に通う小学生への通学、校内支援を要するため、ボランティア等を募り関係機関と調整したいと考えている。
- ・世代間交流や健康づくりを切り口にした各種講座を開催し、地域におけるミニデイサービス活動等の新たな担い手発掘・育成につなげていきたい。
- ・地域の皆様へ認知症や高齢者への理解を深めていただくと共に近隣学校、保育園との交流や体験学習を通し、次世代の福祉従事者の育成に貢献したい。
- ・被災地の児童福祉施設に職員を派遣したり、学生の保育実習に留まらずアルバイト雇用なども含めて、未来の福祉従事者を発掘していきたい。

●相談に関すること

- ・在宅介護の介護者向けにおむつ交換や移乗などの介護技術の指導や、悩みや相談に答えていきたい。
- ・子育てや生活面などの相談が電話や来所で出来る立ち拠り所の役割を果たしたい。
- ・就学前の子育て等に悩んでいる方々へのサポートを行い、地域での思いや悩みを行政機関に対し伝え、問題解決が図られるよう運動を行いたい。
- ・地域住民の相談窓口として何でも気軽に相談でき、必要時は機関に繋ぐワンストップサービスの役割を担い、早期に対応できる拠点としての活動をしていけたらと考えている。

●情報の提供、人材（職員など）派遣に関すること

- ・施設の専門職による在宅介護に関する出前講座。
- ・地域のニーズに対して、法人・施設が保有する設備・備品や培ってきたノウハウを積極的に活用して地域福祉の向上、暮らしやすい街づくりへ寄与していきたい。

●社会参加の支援に関すること

- ・引きこもりや不登校の子どもが、保育園に来てもらって、社会に出る1歩目の助けとなるような活動をしたい。
- ・生活困窮者の児童に対しての学習支援など。

●地域の防犯、防災、治安維持

- ・災害時の人材派遣。
- ・防犯パトロール活動の充実を図る。防犯意識の普及から防犯知識の向上に繋げて青色回転灯を装備した活動の拡大と、重点箇所のパトロールを展開し住みよい街づくりを実践していきたい。

2部 地区社会福祉協議会への調査結果

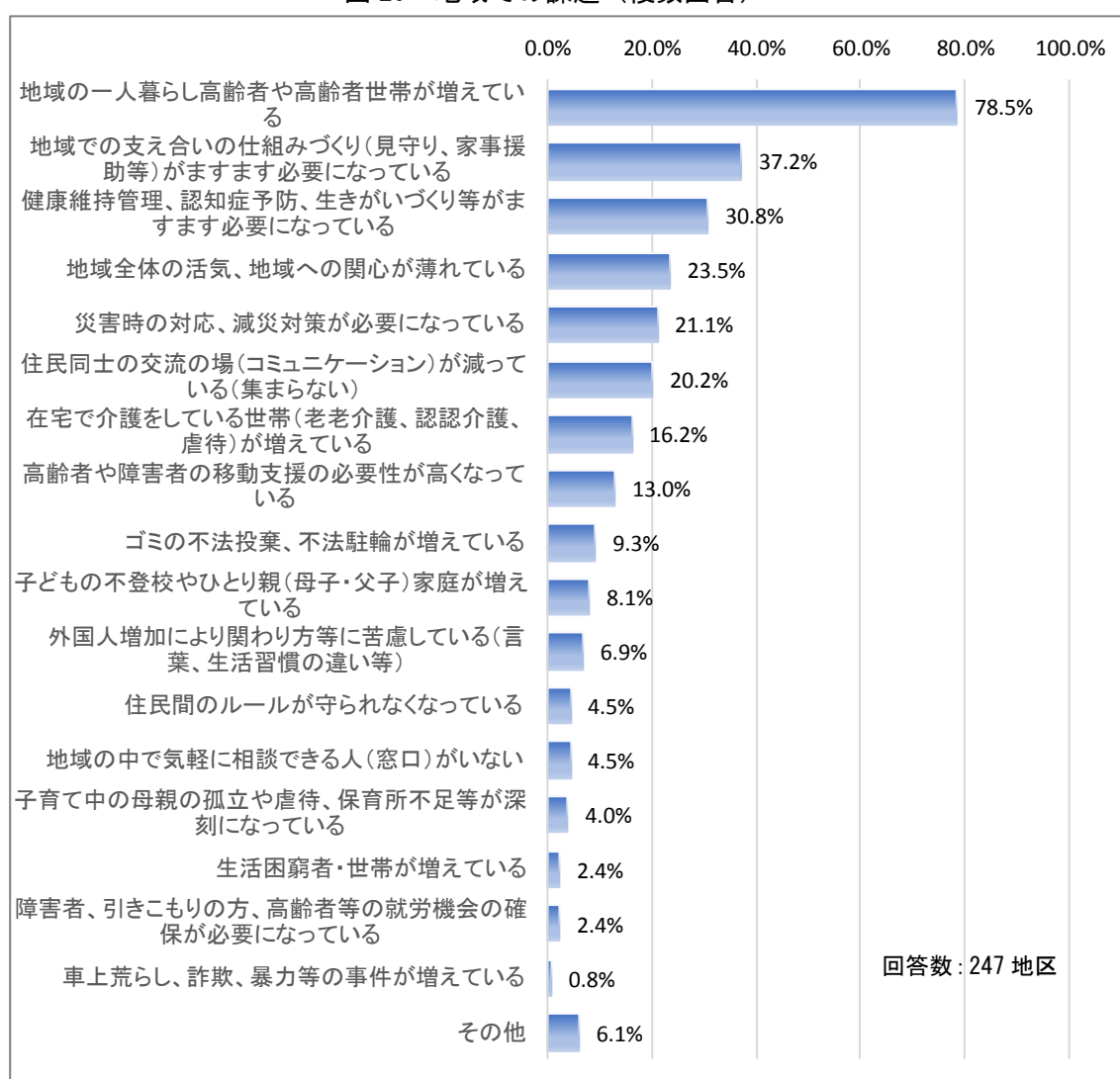
1. 地域の課題

地域の課題として、「地域の一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増えている」、「地域での支え合いの仕組みづくり（見守り、家事援助等）の必要性」、「自分自身の健康維持管理、認知症予防、生きがいつくり」等が上位に挙がっています。

地域の課題（困っていること、気になっていること）は、「地域の一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増えている」が194（78.5%）と最も多く、「地域での支え合いの仕組みづくり（見守り、家事援助等）の必要性」が92（37.2%）、「地域全体の活気、地域への関心が薄れている」が58（23.5%）等、まちの活気、住民同士のつながりに関することが上位に挙がっています。また、「自分自身の健康維持管理、認知症予防、生きがいつくり」も76（30.8%）で3番目に多くなっています。

全体として一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増えていくことに対して、地域で支え合っていくために、地域での支え合いの仕組みづくり（見守り、家事援助等）や地域での住民同士のつながりづくりがますます重要になっていることがうかがえます。

図 20 地域での課題（複数回答）



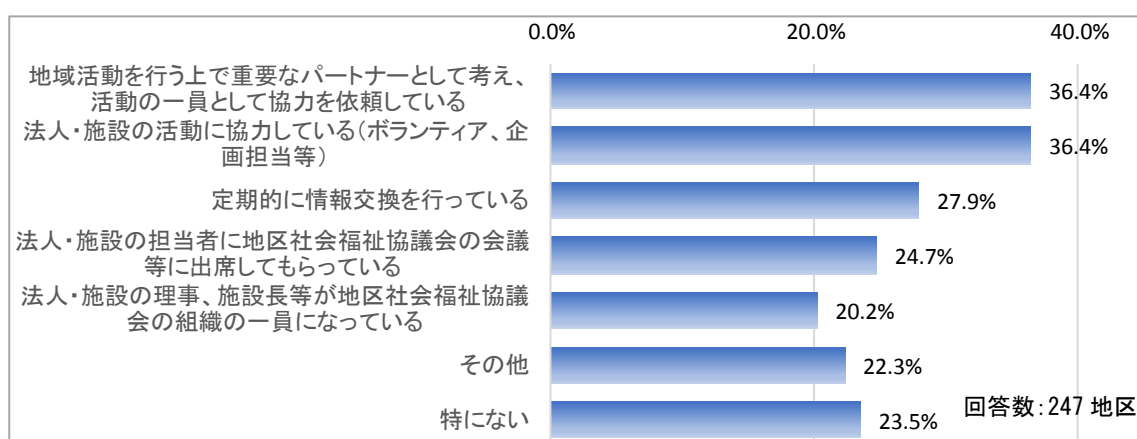
2. 地域活動を行う上での社会福祉法人・施設との関わり

法人・施設との関わりは、現在及び今後も、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、活動の一員として協力を依頼している（依頼したい）」が最も多くなっています。
また、法人・施設側も同じ意向があり、お互いの関わり方について一致した考えを持っています。

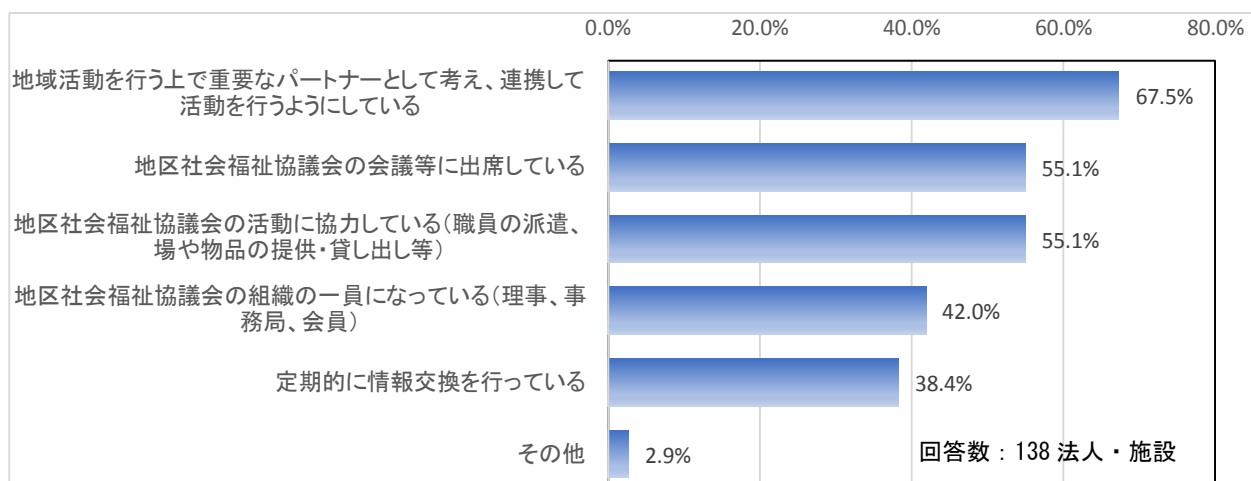
（１）現在の社会福祉法人・施設（地域ケアプラザは除く）との関わり

社会福祉法人・施設（地域ケアプラザは除く）との現在の関わりは、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、活動の一員として協力を依頼している」、「法人・施設の活動に協力している（ボランティア、企画担当等）」が共に 90（36.4%）で最も多くなっています。なお、その他の回答として、「会長が法人の第三者委員になっている」、「街づくり推進会議のメンバーとして参加してもらっている」、「子育てサロンに職員を派遣してもらっている」、「定期的に講座を手伝ってもらう」等が挙げられています。法人・施設においても地区社会福祉協議会に「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、連携して活動を行うようにしている」が 67.5%と最も多くなっており、お互いの関わり方に対して一致した考えを持っていることがわかりました。

図 21 社会福祉法人・施設との関わり（複数回答）



<参考 4（図 10） 法人・施設の「地区社会福祉協議会との関わり（複数回答）」再掲>

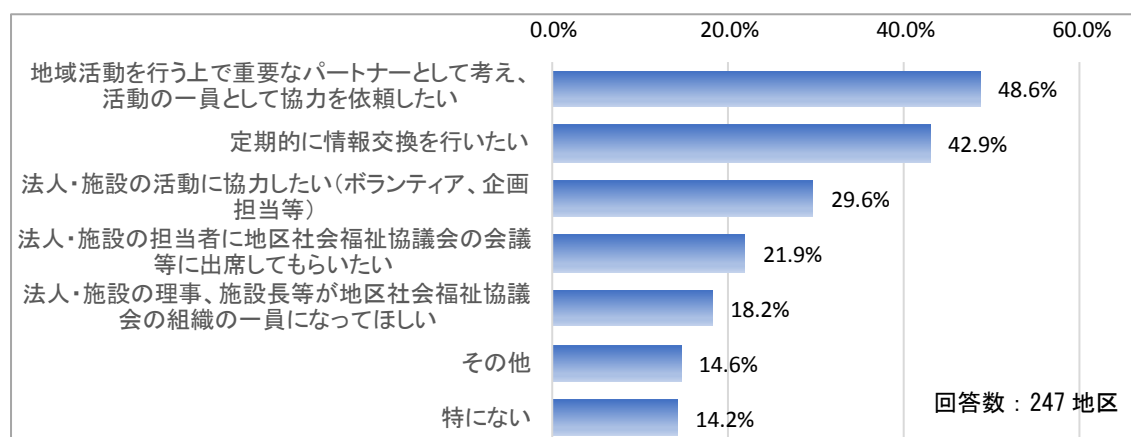


（２）今後、希望する関わり

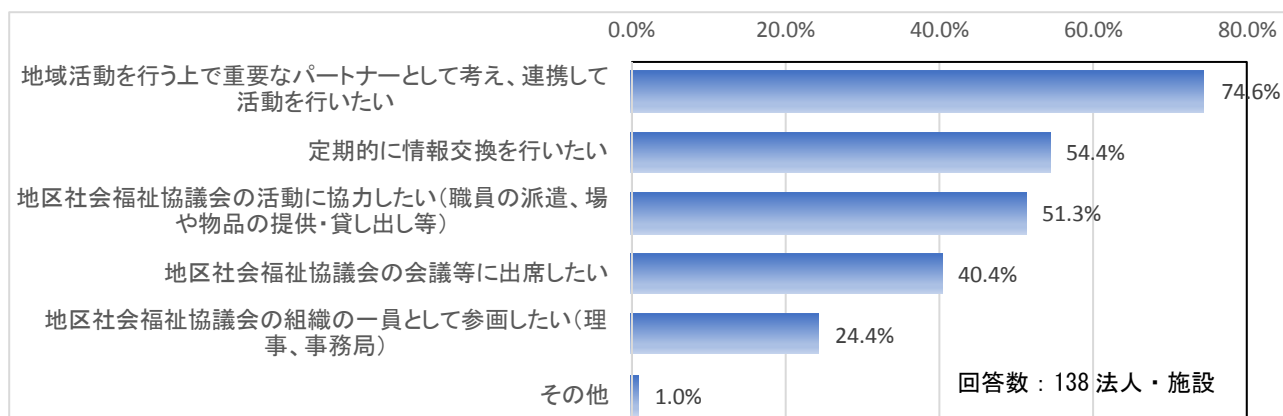
社会福祉法人・施設（地域ケアプラザは除く）と今後希望する関わりも、「地域活動を行う上で重要なパートナーとして考え、活動の一員として協力を依頼している」が 120（48.6%）と最も多く、以下「定期的に情報交換をしたい」が 106（42.9%）と続いています。これも法人・施設が地区社会福祉協議会に希望している関わりと同様の傾向です。

なお、その他の回答として、「どのような連携ができるか時間をとって話し合いたい」、「地区社協が足を運ぶことで信頼関係を築きたい」、「災害関係の会議や地区計画会議に出席してほしい」、「災害時の避難場所をまとめた情報誌を作してほしい」、等の意見が挙がっています。

図 22 社会福祉法人・施設との今後、希望する関わり（複数回答）



＜参考 5（図 16） 法人・施設の地区社会福祉協議会との今後の関わり（複数回答）再掲＞



3. 法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動で知っている活動

法人・施設が取り組む地域貢献活動で、知っている活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」、「地域の子育て支援」、「住民同士の交流の場づくり」等、地域の交流を深める活動が多く挙がっています。

地区社協が関わっている法人・施設の活動でも、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」、「住民同士の交流の場づくり」が多く、その活動を始めた経緯は、「地区社協から法人・施設に提案して行った活動」が多いことがわかりました。

また、今後も4分の3以上の地区社協が、活動内容の増加・充実を希望しています。

社会福祉法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動について、「知っている活動がある」と回答した地区社協は188で全体の76.1%を占めます(図23)。

188の地区社協が知っている活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が133(70.7%)と最も多く、以下「地域の子育て支援(育児サークル運営、パパ・ママ講座、園庭開放等)」が96(51.1%)、「住民同士の交流の場づくり(サロン活動、居場所づくり等)」が93(49.5%)、「認知症予防、介護予防」が88(46.8%)等と続いています(図24)。

なお、その他の回答には、「孤立者の社会参加促進」、「障害理解の普及啓発活動」、「移動スーパーの運営」、「要援護者の一時的避難受入れ」等が挙がっています。

法人・施設が独自に取り組んでいると回答した内容と比べてみると、「ボランティア、福祉人材の育成(実習生・インターンシップの受け入れ、介護体験、介護教室の開催、福祉教育等)」は法人・施設が最も多く取り組んでいる活動であるにもかかわらず、地区社協の認知度は約3割とそれほど多くありません。

一方、「認知症サポーターの養成、活動支援」、「認知症予防、介護予防」、「地域の一人暮らし高齢者等への見守り活動」、「高齢者や障害者の外出の支援(移動サービス)」等は、実際に取り組んでいる活動よりも認知度の割合が高くなっています。

図23 社会福祉法人・施設の地域貢献活動の認知

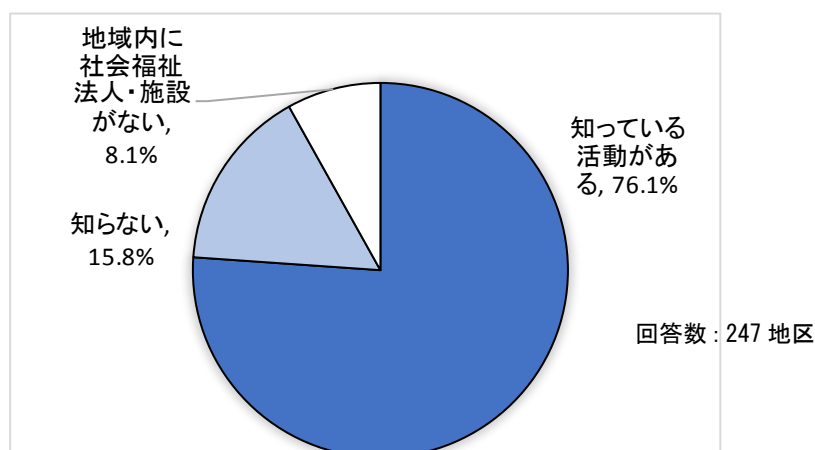
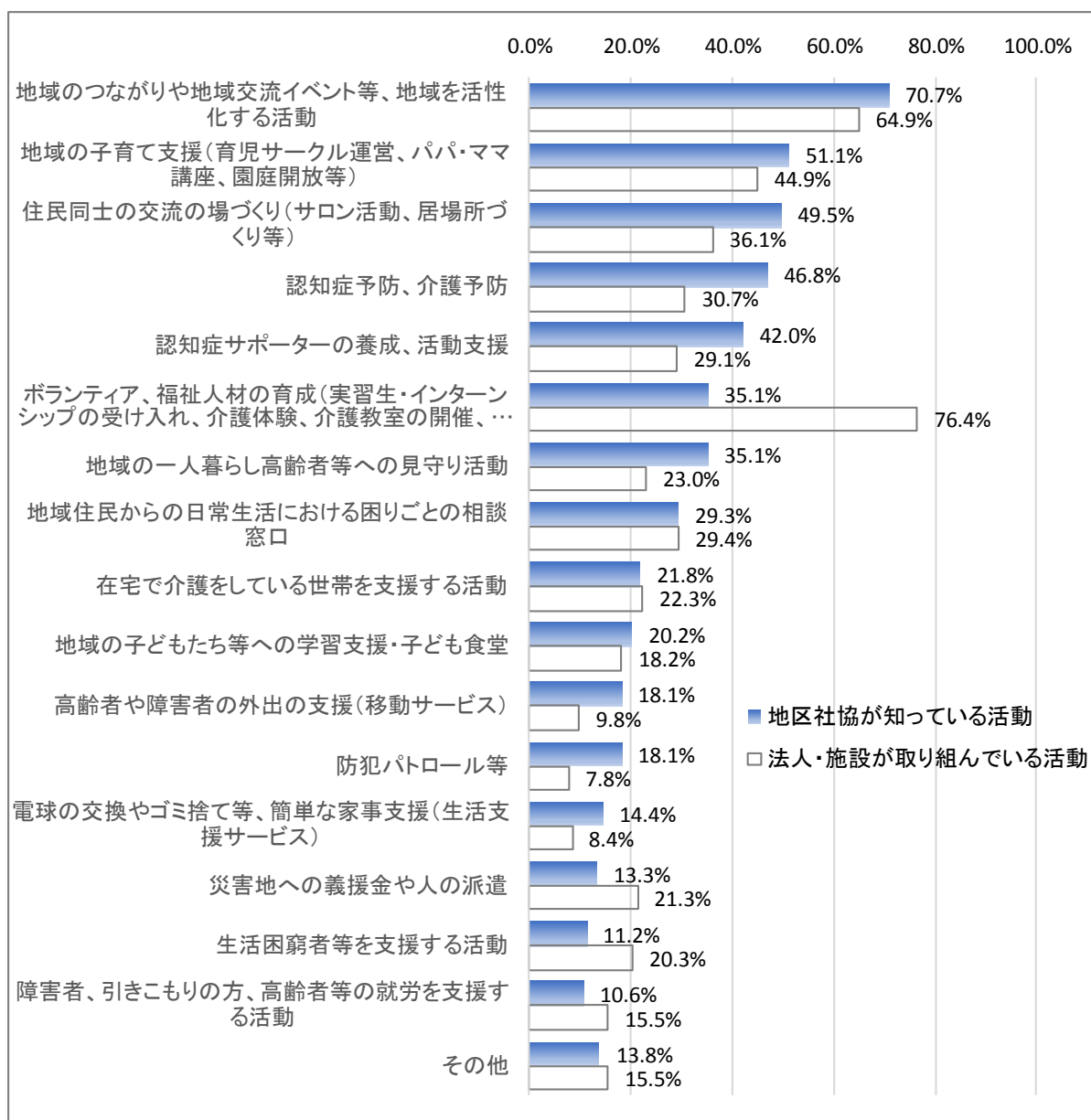


図 24 法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動で知っている活動(複数回答)



地区社協が知っている活動の回答数 : 188 地区

法人・施設が取り組んでいる活動の回答数 : 296 法人・施設

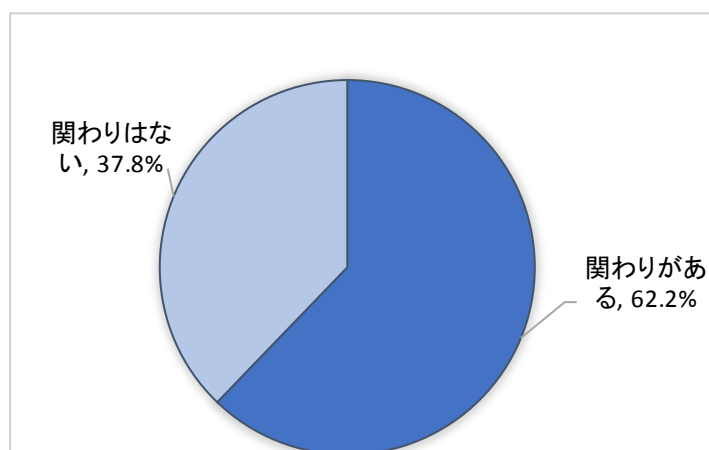
(1) 地区社協が関わっている法人・施設の地域貢献活動

法人・施設の地域貢献活動を知っていると回答した 188 の地区社協のうち、実際に「関わりがある」と回答したのは 117 で全体の 62.2%を占めています(図 25)。

117 の地区社協が実際に関わっている地域貢献活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が 68(58.1%)と最も多く、以下「住民同士の交流の場づくり(サロン活動、居場所づくり等)」が 43(36.8%)、「認知症予防、介護予防」が 33(28.2%)、「地域の子育て支援(育児サークル運営、パパ・ママ講座、園庭開放等)」が 32(27.4%)等と続いています(図 26)。

さらに、特に力を入れて取り組んでいるのは、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が 41(35.0%)と最も多く、以下「住民同士の交流の場づくり(サロン活動、居場所づくり等)」が 21(17.9%)、「認知症予防、介護予防」、「地域の子育て支援(育児サークル運営、パパ・ママ講座、園庭開放等)」が共に 9(7.7%)となっています(図 27)。

図 25 法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動に対する地区社協の関わり



回答数：188 地区

図 26 地区社協が関わっている法人・施設の地域貢献活動（複数回答）

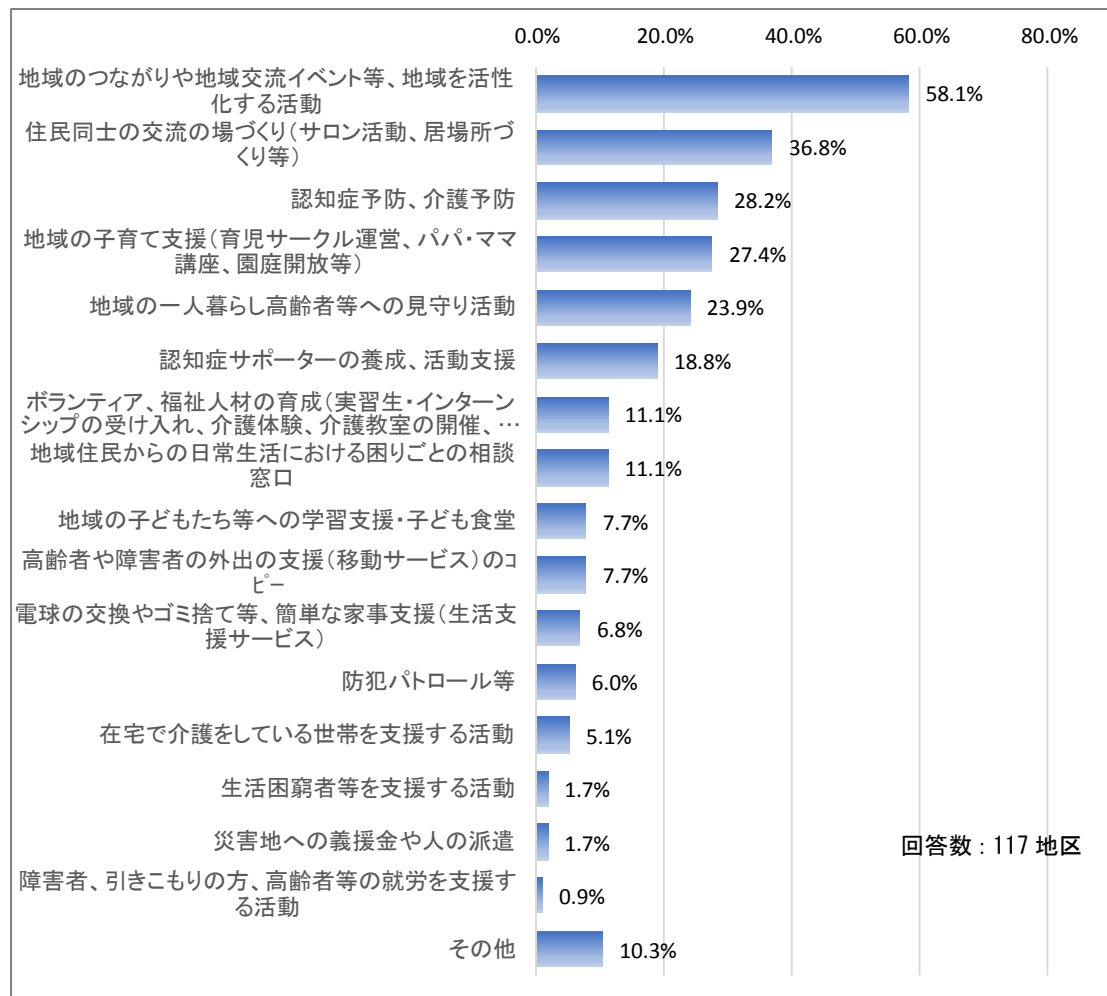
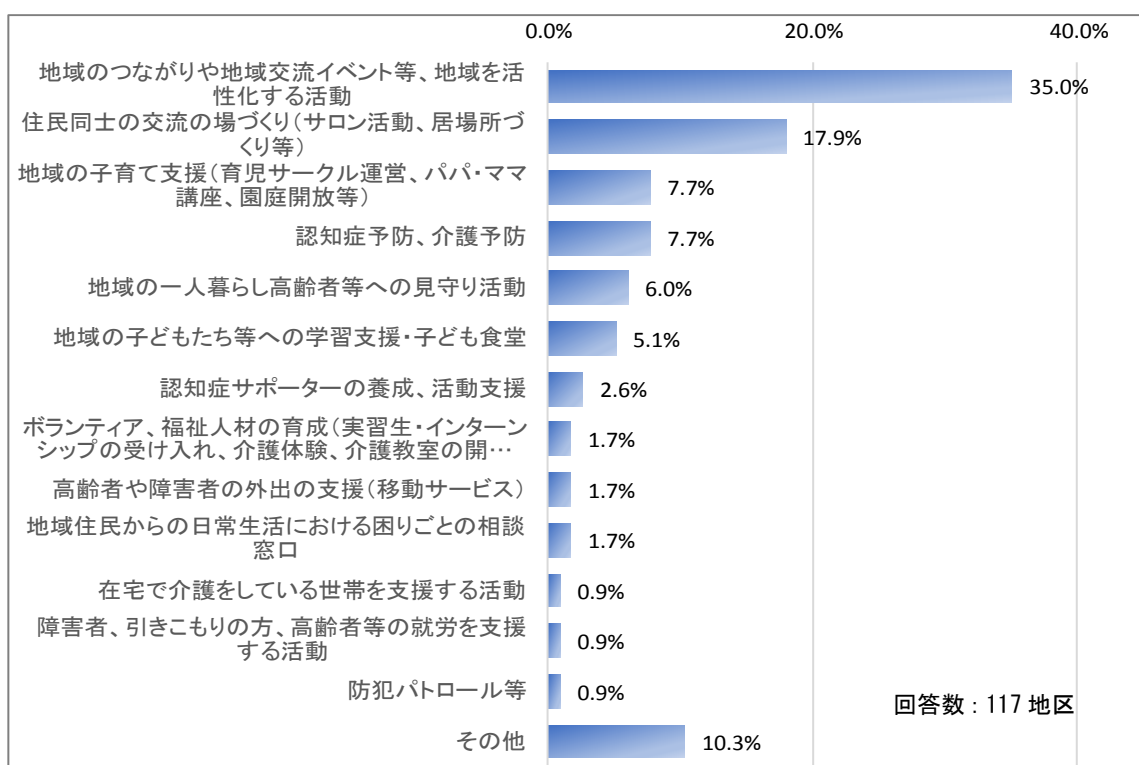


図 27 特に力を入れて取り組んでいる地域貢献活動



特に力を入れて取り組んでいる具体的な内容(一部)

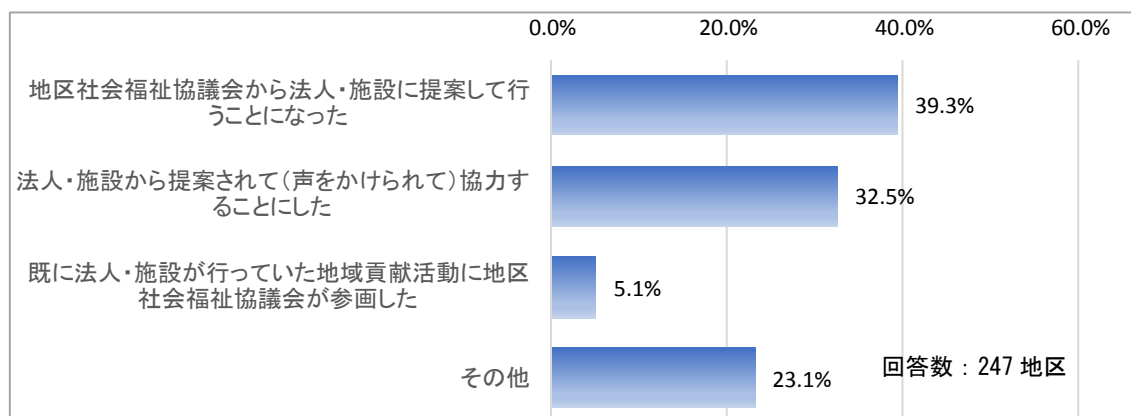
内容	頻度	対象層	一緒に行っている関係機関
●まちづくり			
異世代交流事業:地区の老若男女が一堂に会しサツマイモの栽培を行っている。苗の植え付け、雑草取り、収穫祭など年間6～7回共通の目標に向かって協力し合うことで、お互いに打ち解けて会話が弾み、地域活動の活性化に寄与している。	年間6～7回 共同作業	地域住民	グループホーム
食事会・敬老会の協力を受けている。地区社協主催の敬老会について、3年程前までは特別養護老人ホームが会場を提供していた。その後、小学校が会場となったが、現在は、プログラムの印刷など事務的な部分で支援を受けている。	年1回	一人暮らし高齢者	特別養護老人ホーム
地域交流として実施しているバーベキュー大会。世代を超えた交流をしており関係機関職員も手伝いにくる。	年1回	地域住民	自治会町内会、地区社協、行政委嘱委員、区役所
福祉の集い、親の介護を考えるをテーマに、自分が介護することになったらどう準備したらいいか、いろいろな方法を学ぶ。地区内の施設の方に専門の話を聞いたり、質問に答えてもらっている。	年1回	親の介護を考える 40～60歳ぐらいの方	特別養護老人ホーム
障害当事者、地域住民の方々と、健康体操サークルを作り、施設職員がボランティアとして参加している。	月1回	地域住民、障害当事者	障害者地域活動ホーム
●交流・居場所			
認知症カフェ、会場は二か所で毎回15～20人程度。	月1回	認知症高齢者	特別養護老人ホーム
地域のサロン(居場所)活動…有料老人ホームの食堂を借りてサロンを開催。¥100 でコーヒーマグを提供。	月1回	施設入居者、地域住民	地域ケアプラザ、有料老人ホーム
健康マージャンにおける会場提供、施設入所者も参加。	毎日	高齢者	特別養護老人ホーム
地域サロン 10 時～12 時の内、保育園児たちが 30 分程度参加し、歌やお遊戯等を披露する。最後は必ず1対1で向かい合って「君にあえてうれしい」の手話の歌を歌い、肩たたきやハグをして終わる。	毎月第3月曜日	高齢者	保育園
特別養護老人ホームのロビーを会場に喫茶(コーヒーマグなどの飲み物とケーキなど)を開催。地域のボランティアが施設職員とともに喫茶の担い手として活動している。	月1回	地域住民、ホーム入居者	特別養護老人ホーム
●子育て支援			
子育てサロンを民児協の協力により、ボランティアで実施(内容は情報交換、ママ友づくり。防災・食育・歯の事等のミニ講座、お楽しみ会等)。	月1回	0～2歳までの乳幼児と保護者	地域ケアプラザ
子育てサロンは0歳から未就学児とその保護者を対象に実施。毎回 10 数組の親子が参加され、絵本の読み聞かせ、手話を交えての歌唱、ママへの助言・相談等、親子でほっとできる楽しい居場所づくりを心掛けている。	月1回	乳幼児を育てている母親と子ども	地域ケアプラザ
●健康づくり			
スクエアステップ(介護予防体操)。	1か月1回	高齢者	地域ケアプラザ
地域のサロン、ボランティア活動員(60名)等に認知症対応、支援について教えていただき、地域共生社会実現に向けて活動している。	2か月1回	地域住民、ボランティア	民間企業(認知症高齢者グループ)、ワーカーズ
認知症の理解と予防。各自治会町内会単位で、認知症の理解を深める講座や転倒予防体操を行っている。	月1回～年数回	地域住民、高齢者および活動者	地域ケアプラザ

認知症予防のためのサロン	月1回	高齢者	地域ケアプラザ
●高齢者・障害者支援			
保育園児が高齢者の食事会に来てレクリエーション的な出し物をしてくれる。保育園で調理した食事を配食して提供してくれる。	週1回	高齢者	保育園
特別養護老人ホームで、ホームまで送迎無しで出向ける人で希望者にお風呂を楽しんでもらい、ゆったりした時間を提供している。	月1回	介護保険非該当者	
●次世代育成			
子どもの居場所(放課後の居場所のない子ども達が友達と遊んだり、学校の宿題をしたりする場所)を開催。	月2回	小学生	地域ケアプラザ
株式会社が運営する地域交流拠点を活用した小学生・中学生の放課後学習支援。	小学生：週1回、中学生：週2回	歩いて拠点まで来ることができる小学生、中学生	
子ども食堂へ米を提供	2か月に1回	地域住民	保育園
小学生ボランティアを募り、地域の高齢者の食事会に参加させている。	月1回		地域ケアプラザ
●人材育成			
地域内の認知症キャラバンメイトとの連絡会議等を定期的に開催し、小・中学校や商店会等にサポーター養成講座を開催している。	月1回程度	地域住民	地域ケアプラザ、特別養護老人ホーム
定期的に認知症サポーター養成講座をしている。	年2～4回	地域、学校	地域ケアプラザ
●防犯			
定期的に防犯パトロールを実施	定期的	地域住民	
●相談情報提供			
必要な場面に応じて相互に関わる。地区社協には常設の拠点があるので相談できる環境がある。関係性ができているので、発見や共有ができている。	その都度	高齢者、障害者	地域ケアプラザ
●その他			
プロジェクトでの孤立者の社会参加促進・住民交流のための取り組み。孤立者の生活実態調査、昼食会等のイベントの開催。関係機関と連携し、課題を抱えた人に対して地域では何ができるか、課題共有と情報交換を行っている。	月1回	地域住民	地域包括支援センター
当地区社協事業の受付・配布運営にかかわってもらっている(子育てしやすい地域づくり事業の懇談会等)。高齢者や子育て中の母親たちの相談窓口として地区社協が開催するサロンにかかわってもらっている。地区に助け合い組織を設立するため、人材育成として共催で講座を開催している。	月1回	子育て世代(障害者も含む多世代)	保育園、区社協、地域ケアプラザ、地域活動ホーム
障害理解講座：出前講座を通じて障害のある人が災害時、地域の方に知っていてほしいことや横浜市域での取り組みを理解する。また、障害団体と地区社協とでコミュニケーションボードを作成し地区社協が出店する祭り等でそのコミュニケーションボードを通じた啓発活動を実施する。	年4回程度	地域住民	地域活動ホーム、地域作業所等

（２）活動を始めた経緯（理由）

法人・施設と活動を始めた経緯（理由）は、「地区社会福祉協議会から法人・施設に提案して行うことになった」が 46（39.3%）、「法人・施設から提案されて（声をかけられて）協力することにした」が 38（32.5%）となっています。

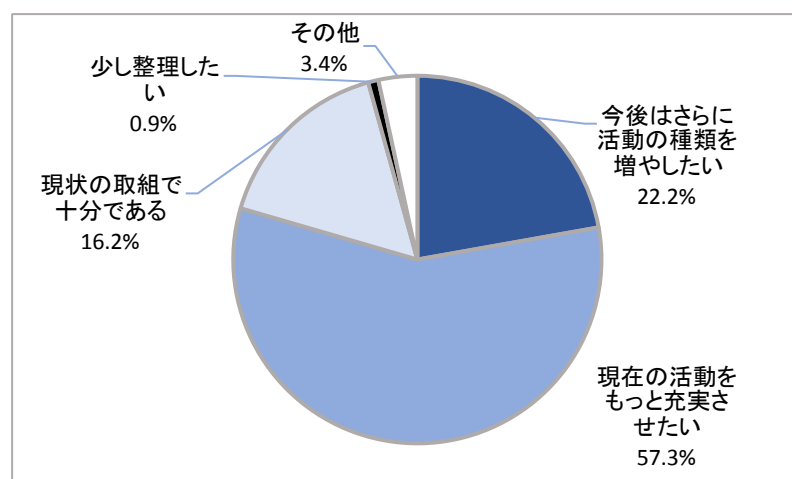
図 28 活動を始めた経緯（理由）（複数回答）



（３）今後の継続意向

今後の継続意向は、「現在の活動をもっと充実させたい」が 67（57.3%）と、「今後はさらに活動の種類を増やしたい」が 26（22.2%）で、合わせて4分の3以上の地区社協が、現在よりもさらに増加あるいは充実させたいと考えています。

図 29 今後の継続意向



回答数：247 地区

4. 今後、法人・施設に取り組んでほしい地域貢献活動

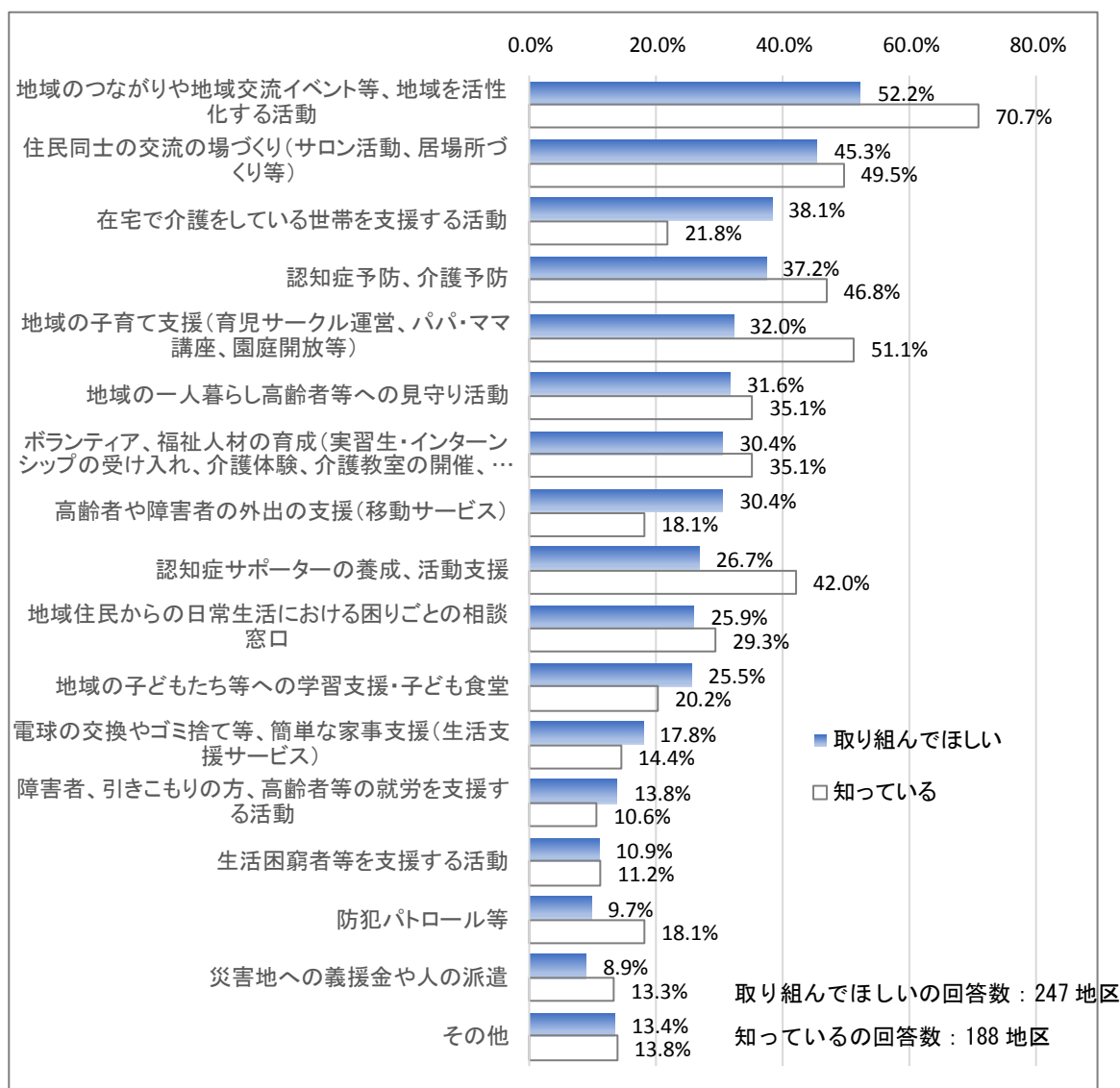
今後、法人・施設に取り組んでほしい活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」、「住民同士の交流の場づくり」等が多く挙がっています。

知っている活動の割合よりも回答が多かったのは、「在宅で介護をしている世帯を支援する活動」、「高齢者や障害者の外出の支援（移動サービス）」、「地域の子どもたち等への学習支援・子ども食堂」です。

今後、社会福祉法人・施設に取り組んでほしい地域貢献活動は、「地域のつながりや地域交流イベント等、地域を活性化する活動」が 129（52.2%）と最も多く、次に「住民同士の交流の場づくり（サロン活動、居場所づくり等）」が 112（45.3%）となっています。

知っている活動よりも取り組んでほしい活動の割合が大きく増えているのは、「在宅で介護をしている世帯を支援する活動」、「高齢者や障害者の外出の支援（移動サービス）」、「地域の子どもたち等への学習支援・子ども食堂」です。特に「在宅で介護をしている世帯を支援する活動」は 10 ポイント以上も増えています。地区社協の課題として、「地域の一人暮らし高齢者や高齢者世帯の増加」、「地域での支え合いの仕組みづくり（見守り、家事援助等）」が挙げられており、関連した活動への期待が高くなっています。

図 30 今後、取り組んでほしい地域貢献活動（複数回答）



地区社協の声 社会福祉法人・施設に協力してほしい具体的な活動(一部)

●法人・施設との顔の見える関係、信頼関係をつくりたい

- ・地域に出てきてくれると協力する接点も見つけやすい。
- ・高齢者対策として、地域のボランティア団体とのコーディネート、地区社協と地域のボランティア団体との連携を図りたい。コーディネーターとして活動の実態などの情報交換を行い、小さな困りごとにも対応できる組織を作りたい。
- ・育児相談、困りごと相談が気軽にできる場がほしい。

●地域の繋がりをつくる催し物などに参加してほしい

- ・異世代交流事業を行っているので、参加していただきたい。
- ・施設＋地域住民の交流の場を開いてほしい。

●交流の場づくりを支援してほしい

- ・高齢者向けの落語サロンを開催しているが、施設職員にも参加していただき高齢者向けの話をしてもらい、地域住民に施設のことを知る機会を作りたいと思っている。
- ・サロンを開きたいので、場所を提供してほしい。
- ・共稼ぎ家庭の子どもの放課後の居場所づくり。
- ・認知症カフェの立ち上げをお願いしたい。

●場や福祉機器などを地域に貸し出してほしい

- ・地区社協での各種行事に使用する備品等の保管場所の提供、協力等をお願いしたい。
- ・福祉教育用の車椅子の貸出に協力してもらえたら助かる。

●施設紹介などもっと情報を提供してほしい、情報交換もしたい

- ・地域にあるデイサービスの見学ツアーを行う予定。今後、施設の見学会等を開いてもらえる機会があれば地区社協として訪問したい。
- ・施設で行っている活動を地域内の方に知っていただけるようにする活動をお願いしたい。
- ・情報交換を兼ねた交流会。

●専門職の派遣、講座の開催、アドバイスなどに専門的な視点から支援してほしい

- ・子育て支援活動として保育士等専門家の派遣。
- ・高齢者サロンに高齢者の介護予防、生きがいづくりの講師等の派遣を希望する（高齢者が格好良いファッションでイキイキと生活・外出、女性であれば化粧の仕方、日常の食生活に関すること等）。
- ・医療や認知症、健康体操などの講演会を行ってほしい。

●地域の人材を育成してほしい

- ・ボランティアの担い手確保とボランティア等の研修を充実してほしい。

●移動支援をお願いしたい

- ・空いた時間があれば、敬老会等の行事の際、住民の送迎バスを出して欲しい。
- ・いくつかの自治会町内会を対象に、「買物難民」のために、何か策をお願いしたい。
- ・高齢者、妊婦、子育て世帯、障がい者の送迎や移動手段の支援を一緒に考え実践したい。

●生活面での支援をお願いしたい

- ・高齢者配食サービスを行う際に、大量の昼食づくりのノウハウを知りたい（プロの目でチェック）。
- ・子育て世代に対する預かり支援。
- ・貧困の連鎖のなかであえぐ子どもへの支援。

●災害時の支援をお願いしたい

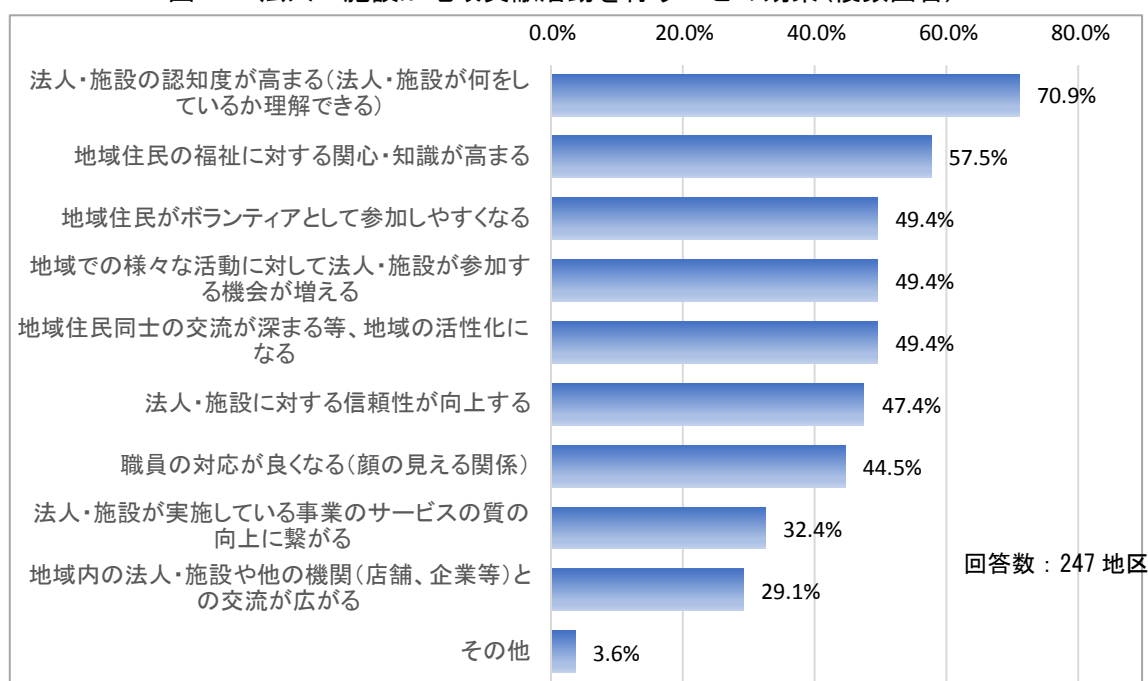
- ・災害時における物資の供給や要介護者の受け入れ等に関する協定を締結したい。
- ・防災訓練などへ参加してほしい。

5. 法人・施設が地域貢献活動を行うことの効果

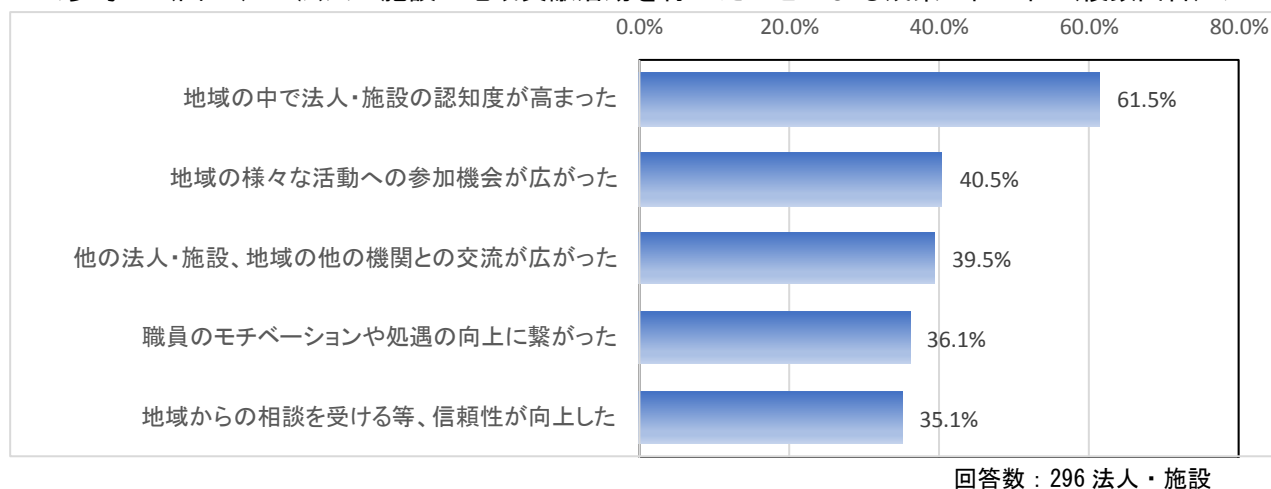
法人・施設が地域貢献活動を行うことの効果は、「法人・施設の認知度が高まる（法人・施設が何をしているか理解できる）」が最も多くなっています。

社会福祉法人・施設が地域貢献活動を行うことで地域に与える効果は、「法人・施設の認知度が高まる（法人・施設が何をしているか理解できる）」が175（70.9%）と最も多く、以下「地域住民の福祉に対する関心・知識が高まる」が142（57.5%）、「地域住民がボランティアとして参加しやすくなる」、「地域での様々な活動に対して法人・施設が参加する機会が増える」、「地域住民同士の交流が深まる等、地域の活性化になる」が共に122（49.4%）等と続いています。地域での認知度が高まる効果は、法人・施設側の回答でもトップに挙がっています。

図 31 法人・施設が地域貢献活動を行うことの効果（複数回答）



＜参考 6（図 11） 法人・施設が地域貢献活動を行ったことによる成果上位 5 位（複数回答）＞

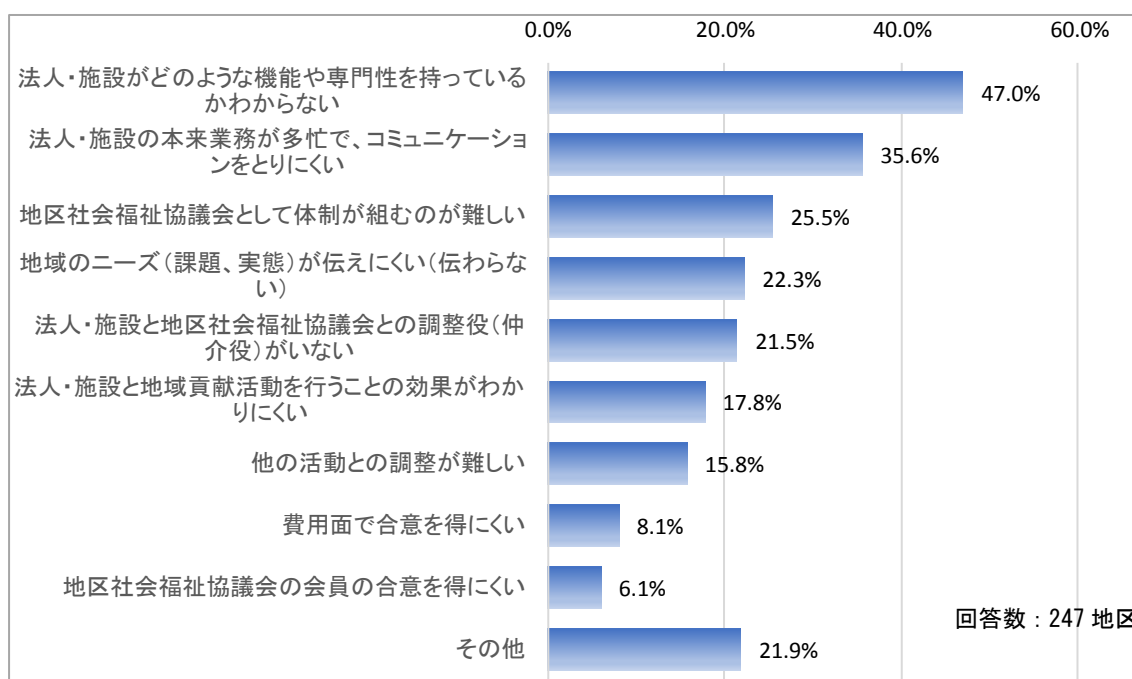


6. 地区社協が法人・施設と協力して地域貢献活動を行う上での課題

地区社協が、法人・施設と地域貢献活動を行う上での課題は、「法人・施設がどのような機能や専門性を持っているかわからない」がトップに挙がっています。

地区社協が社会福祉法人・施設と協力して地域貢献活動を行う上での課題は、「法人・施設がどのような機能や専門性を持っているかわからない」が116（47.0%）と最も多く、以下「法人・施設の本来業務が多忙で、コミュニケーションをとりにくい」が88（35.6%）、「地区社会福祉協議会として体制が組むのが難しい」が63（25.5%）等となっています。法人・施設の情報、状況が地域に伝わりにくいことがみとれます。

図 32 地区社協が社会福祉法人・施設と協力して地域貢献活動を行う上での課題（複数回答）

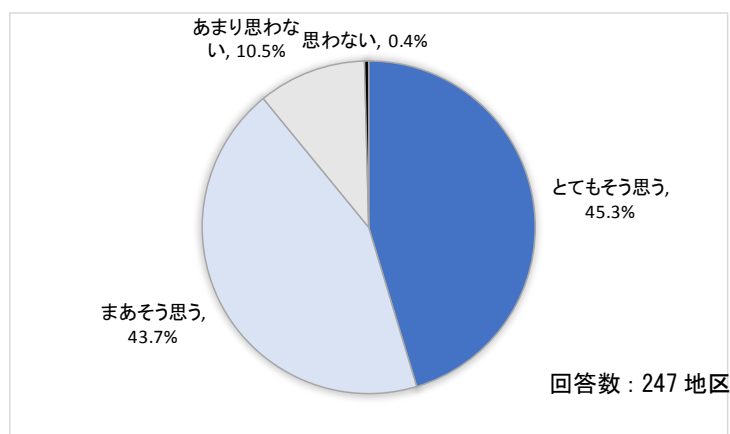


7. 社会福祉施設に対する思い（地域福祉活動の仲間・社会資源の1つ）

9割の地区社協が、法人・施設に対して「地域福祉活動の仲間・社会資源の1つ」と認識しています。

社会福祉施設は、「地域福祉活動の仲間・社会資源の1つ」という考えに対して、「とてもそう思う」が112（45.3%）、「まあそう思う」が108（43.7%）で、合わせると約9割にも達します。

図 33 社会福祉施設に対する思い（地域福祉活動の仲間・社会資源の1つ）

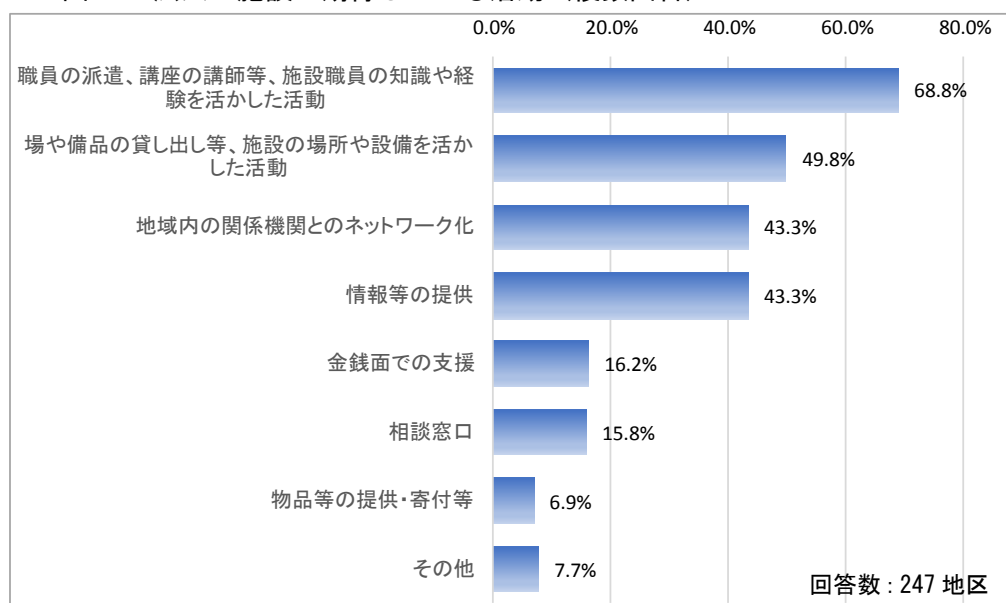


8. 法人・施設に期待している活動

法人・施設に期待している活動は「職員の派遣、講座の講師等、施設職員の知識や経験を活かした活動」が最も多く、施設の専門性を地域へ還元する活動が期待されています。

法人・施設に期待している活動は「職員の派遣、講座の講師等、施設職員の知識や経験を活かした活動」が170（68.8%）と最も多く、以下「場や備品の貸し出し等、施設の場所や設備を活かした活動」が123（49.8%）、「地域内の関係機関とのネットワーク化」、「情報等の提供」が共に107（43.3%）と続いています。

図 34 法人・施設に期待している活動（複数回答）



9. 今後の法人・施設による地域貢献活動についての考え等（自由回答）

●地域に出てきてほしい、見てほしい、まずはお互い知り合える機会を作りたい、理解し合いたい

- ・蜘蛛の巣方式ではなく（待っている）、みつばち方式で（探しに行く）地域に出てきてほしい。
- ・地区社協活動（イベント）に参加してもらいたい。見に来てほしい。
- ・社会福祉法人・施設の関係者と話し合いの場を設け、どのような支援を出来るのか、出来ないことは何なのかを相互に把握できると良い。

●重要なパートナー、メンバーとして参加してほしい、良い関係をつくり、更なる連携を図りたい

- ・法人・施設はますます重要なパートナー。地区社協のメンバーとして参加してほしい。
- ・情報交換をしてお互いに地域の中の一員だという意識が持てるようになりたい。
- ・地区社協・民児協としては高齢者の見守りをしている。いずれその方が施設に入られる選択をする時までのつなぎをしているようなところもあるので、ともに活動をしていければと思う。
- ・お互いにプラスになる関係性を築きたい。施設入所者も行事等に参加してくれるところもあり、「地域の中の普通の生活」であるよう協力したい。
- ・短期的な関わりではなく、地域の特性を理解したうえでお互いに意見を言ったり、相談したりできる長期的なつながりを作れるとよい。
- ・地域が持っている強みと施設が持っている強みを両方活かして、ともに活動できるよい。
- ・施設がどういった所なのか理解を深め、顔の見える関係でネットワークをつくり協力体制を組みたい。
- ・施設の利用者だけではなく、一般住民も気軽に訪問してお茶をしたり職員と話せるような環境作りをしてほしい。

●相談にのってほしい、アドバイスをしてほしい

- ・地区内に課題を抱えた方が多いので、出張相談等してくれると嬉しい。
- ・施設でも地域住民の困りごとの相談窓口を作ってもらえると困ったときに頼れる場所が増えてよい。
- ・外国籍の親子の居場所（学習支援も含む）や思春期の子ども達が相談できる窓口があると良いと思う。
- ・社会福祉法人や施設などのプロの方々が私たちのボランティアの相談にのってほしい。

●講座、職員派遣など専門性を提供してほしい

- ・お金・物ではなく、専門知識を活かせる人的な関わりを作っていきたい。
- ・施設が専門家ならではの工夫、知識を伝えてもらえると良い。
- ・施設の資源を活かした活動の展開、例えば認知症の理解の講座提供、認知症や寝たきりの方への介護について具体的な知識を提供する講座、障害者への理解、地域住民としてどのように接して欲しいかを具体的に説明してくれる講座等。

●地域住民の生活を支援する活動を行ってほしい

- ・各地域で展開するサロンや子ども食堂などに食材の配達、移動販売支援等を行ってほしい。
- ・送迎のニーズや移動スーパーのニーズに対応してほしい。
- ・移動サービスをやってほしい。
- ・施設側の機能を活かし、在宅で介護している人達へのサポートや施設の車の活用なども進めて欲しい。
- ・支え合いネットワークの取組への理解を深め、災害時での一時避難の受入の拡大等を進めていきたい。

●場や物品等の貸出・提供、地域の拠点となってほしい

- ・さまざまなイベントや事業を行う時、施設が場所を提供してくれることで継続して行うことができる。
- ・地域の活動とタイアップして近所の施設の一部を借りてできればいいと思う

●もっと施設の情報を発信してほしい、情報交換をしたい

- ・施設で行っていることを、利用者以外に地域に向けても発信してほしい。地域住民を迎えてほしい。
- ・社会福祉法人がどのような活動（貢献）ができるのか、リストのようなものがあったら良い。
- ・情報提供・共有・交換の機会がほしい
- ・社会福祉法人・施設からの情報をもらえると一緒に出来る事を検討できると思うので、もっとPRをしてほしい。
- ・施設側は施設のことを地域に知ってもらうことから始めるべきだと思う。地域の方に施設のことを知ってもらうことで、地域による見守りにもなる。

●地域内での連携・ネットワークをつくってほしい

- ・地域で施設や企業、学校等がネットワークをつくり、皆の思いが一つになって「安心して暮らせる、働ける」町にしていければと思っているので、協力してもらいたい。
- ・施設間のネットワークを構築し、地区社協との連携の窓口を担ってほしい。
- ・施設運営に関わっているボランティアが地区社協と連携を取って、社協活動へもご助力をいただけるとありがたい。
- ・施設には自治会町内会関係者とともに、地域住民の意見を聞く等、リーダーシップを期待したい。

●引きこもりの方への就労支援を期待する

- ・引きこもりの方への就労支援として、社会にでる最初の一步を施設が後押しできるとよい。

3部 地域貢献活動に対する特徴的な傾向（まとめ）

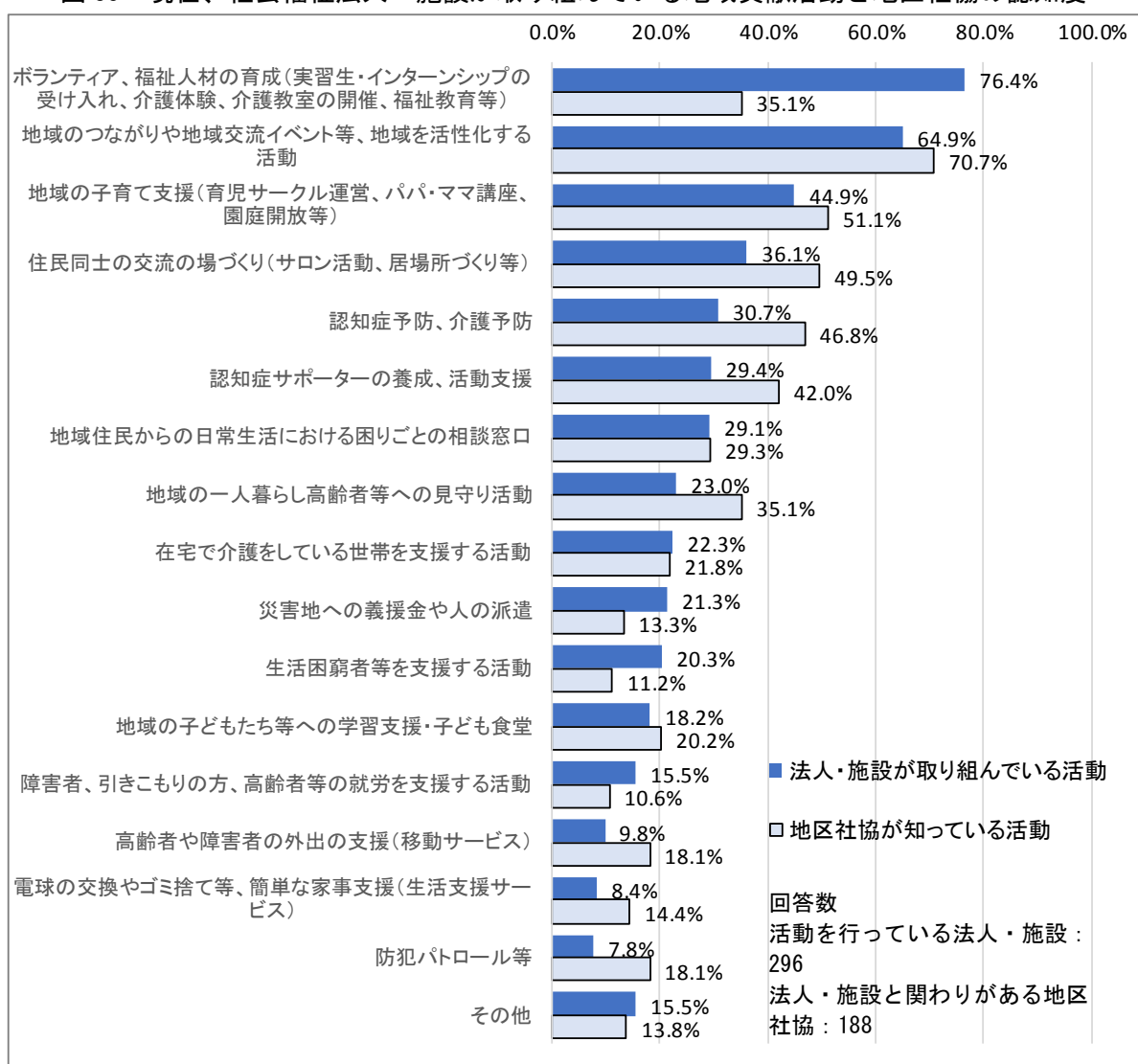
今年度の調査では、社会福祉法人・施設の地域に対する取組（方針）と、地区社協の社会福祉法人・施設に対する要望（期待）とを比較しながら、一致している点、また違いがみられる点などを分析しました。その結果から、地域貢献活動に対する特徴的な傾向としてまとめ、地域が一体となって豊かなまちをつくっていく方向性を検討してみます。

（１）現在、社会福祉法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動と地区社協の認知度

法人・施設が独自に取り組んでいる地域貢献活動と、地区社協の認知度を比較してみると、法人・施設が最も多く取り組んでいる「ボランティア、福祉人材の育成」が、地区社協にはあまり知られてなく、約３割でした。人材育成は実際に地域で目に見える活動ではないので、地区社協が知る機会も少なかったものと思われます。一方、法人・施設が取り組んでいると回答した割合よりも地区社協の認知度の方が多くなっているのが「住民同士の交流の場づくり」、「認知症予防、介護予防」、「認知症サポーター要請」、「地域の一人暮らし高齢者等見守り活動」、「高齢者や障害児の外出支援（移動サービス）」です。これらは地区社協が地域の課題として取り上げたことと一致します。

現在取り組んでいる地域貢献活動が、地域の課題やニーズに合っているか、確認を行うことも必要と思われます。

図 35 現在、社会福祉法人・施設が取り組んでいる地域貢献活動と地区社協の認知度

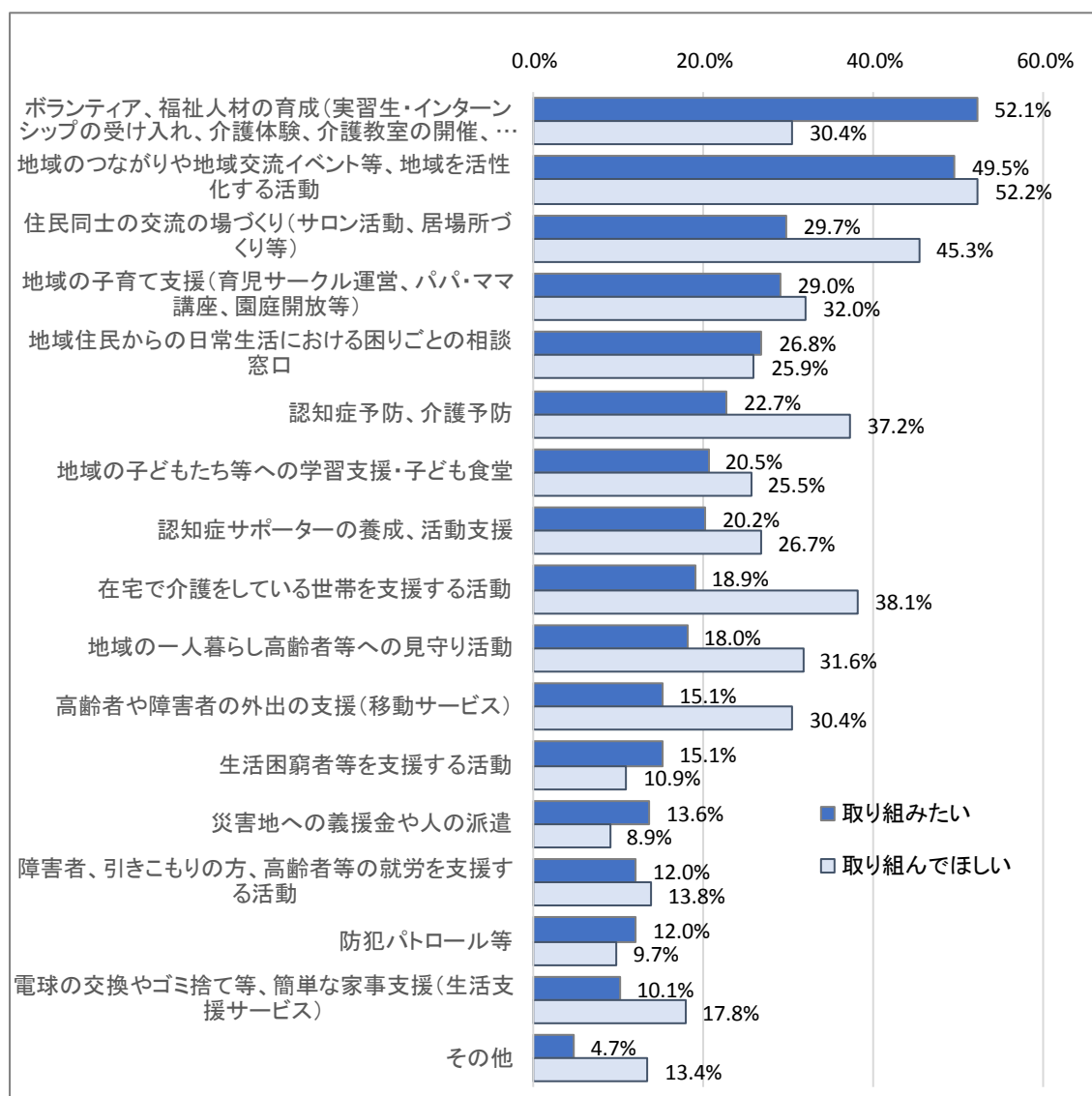


（２）今後、社会福祉法人・施設が取り組みたい地域貢献活動と地区社協が取り組んでほしい活動

今後、社会福祉法人・施設が取り組みたい地域貢献活動と地区社協が取り組んでほしい活動を比較してみると、法人・施設は「ボランティア、福祉人材の育成」が最も多くなっています。一方、地区社協は、上記以外全ての項目で法人・施設の回答の割合より多くなっています。

特に「高齢者等への見守り活動」、「在宅介護世帯を支援する活動」、「高齢者や障害者の外出の支援」等の生活支援に関すること、また「住民同士の交流の場づくり」、「認知症予防、介護予防」等の地域住民の生活と健康と仲間づくりに対する支援を期待していることがうかがえます。

図 36 今後、社会福祉法人・施設が取り組みたい地域貢献活動と地区社協が取り組んでほしい活動



回答数

法人・施設：317

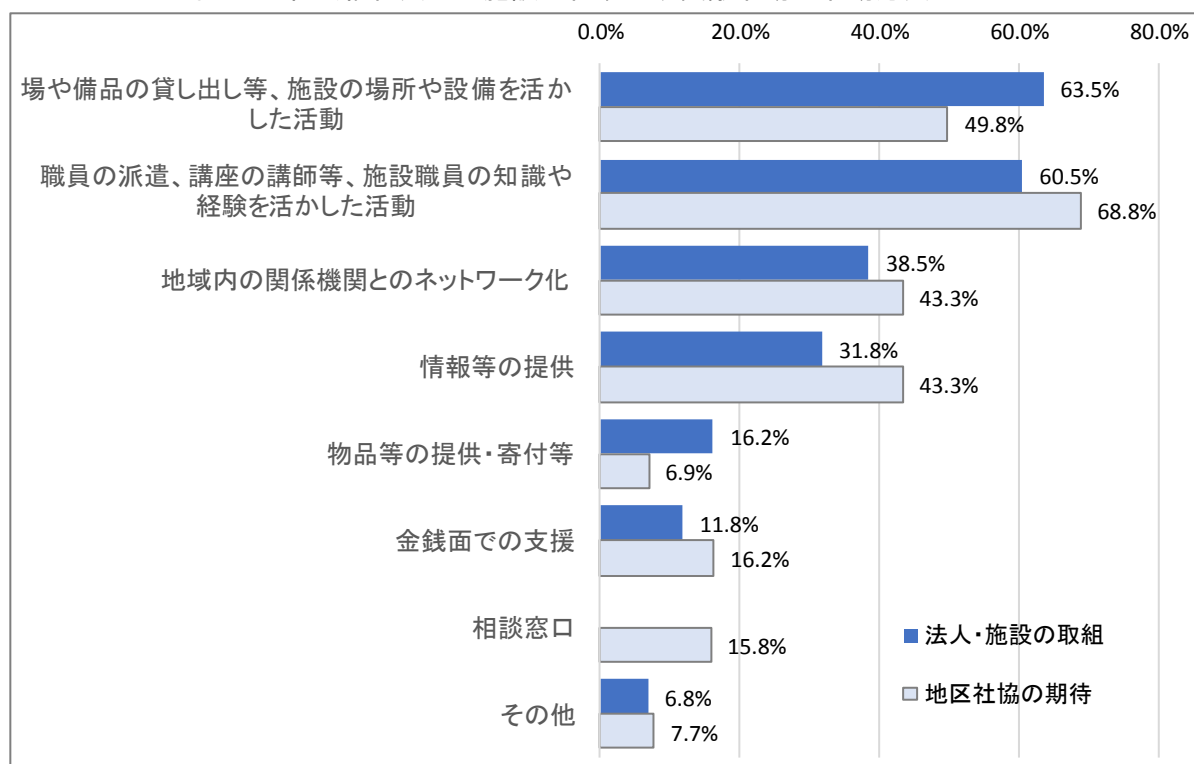
地区社協：247

（３）社会福祉法人・施設が行う地域貢献活動の活動方法

法人・施設が行う地域貢献活動の活動方法としては、法人・施設としては、「施設の場所や設備路活かした活動」、「施設職員の知識や経験を活かした活動」はいずれも６割以上で多くなっています。更に「施設職員の知識や経験を活かした活動」は昨年度の調査よりもが高くなっており（昨年度 45.4%）、地域への人材派遣に力を入れていきたい意向がうかがえます。

一方、地区社協は「施設職員の知識や経験を活かした活動」が最も多く６割以上の期待を寄せています。また「地域内の関係機関とのネットワーク化」、「情報の提供」は地区社協の回答に多く４割以上となっており、「つなぎ役の機能」の重要性がうかがえます。特に「情報の提供」については、地区社協が法人・施設と連携する上での課題で、「法人・施設の専門性がわからない」という意見が多かったこととつながります。

図 37 社会福祉法人・施設が行う地域貢献活動の活動方法



* 法人・施設には「相談窓口」は聞いていない

回答数

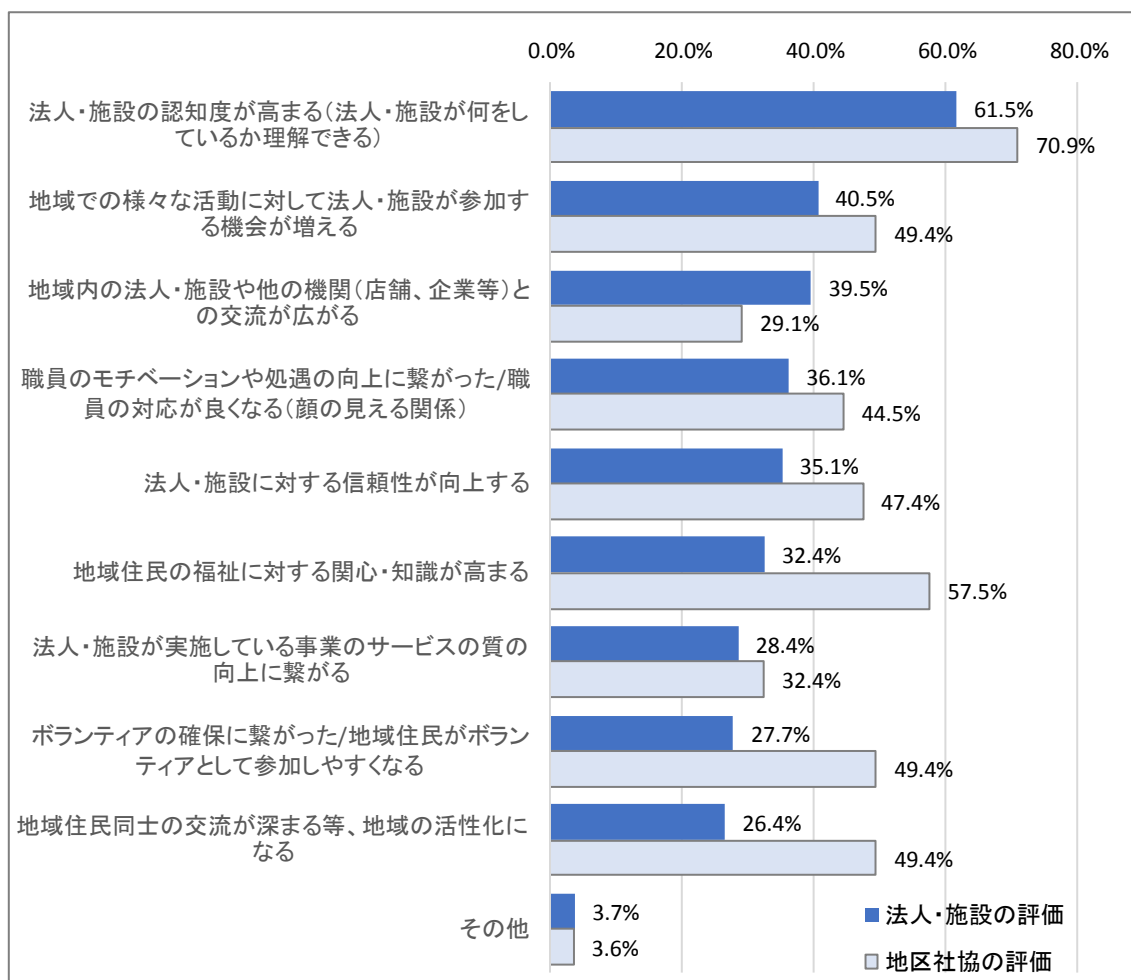
活動を行っている法人・施設：296

法人・施設と関わりがある地区社協：188

(4) 社会福祉法人・施設が地域貢献活動を行うことによる成果

社会福祉法人・施設が地域貢献活動を行うことによる成果としては、ともに「法人・施設の認知度が高まる」をトップに挙げていますが、全体的に地区社協の方が法人・施設よりも評価が高くなっています。特に「地域住民の福祉に対する関心・知識が高まる」、「住民がボランティアとして参加しやすくなる」、「住民同士の交流が深まる等、地域の活性化になる」等の地域全体が元気になると回答した率は地区社協の方が高く、法人・施設への期待が大きいことがうかがえます。

図 38 社会福祉法人・施設が地域貢献活動を行うことによる成果



* 法人・施設の回答／地区社協の設問文、ただし／がない場合は同じ設問文

回答数

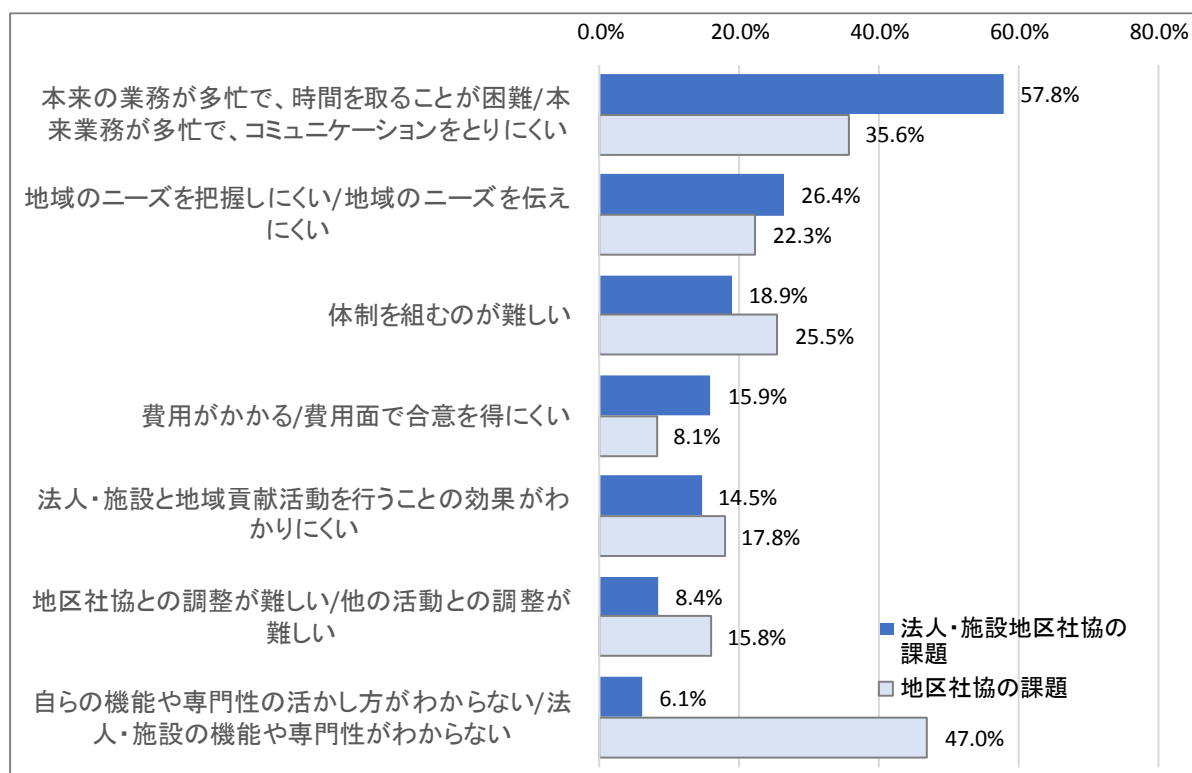
活動を行っている法人・施設：296

地区社協：247

（５）社会福祉法人・施設が地域貢献活動を行う上での課題

法人・施設が地域貢献活動を行う上での課題は、「本来業務が多忙」が最も多くなっており、そのために地域のニーズを把握できないという状況がうかがえます。一方、地区社協は「法人・施設の機能や専門性がわからない」が高くなっており、何を法人・施設に頼んでいいかわからないという状況がうかがえます。双方がもっと「分かり合える工夫」が必要であり、そのための「つなぎ役の機能」がますます重要になってきます。

図 39 社会福祉法人・施設が地域貢献活動を行う上での課題



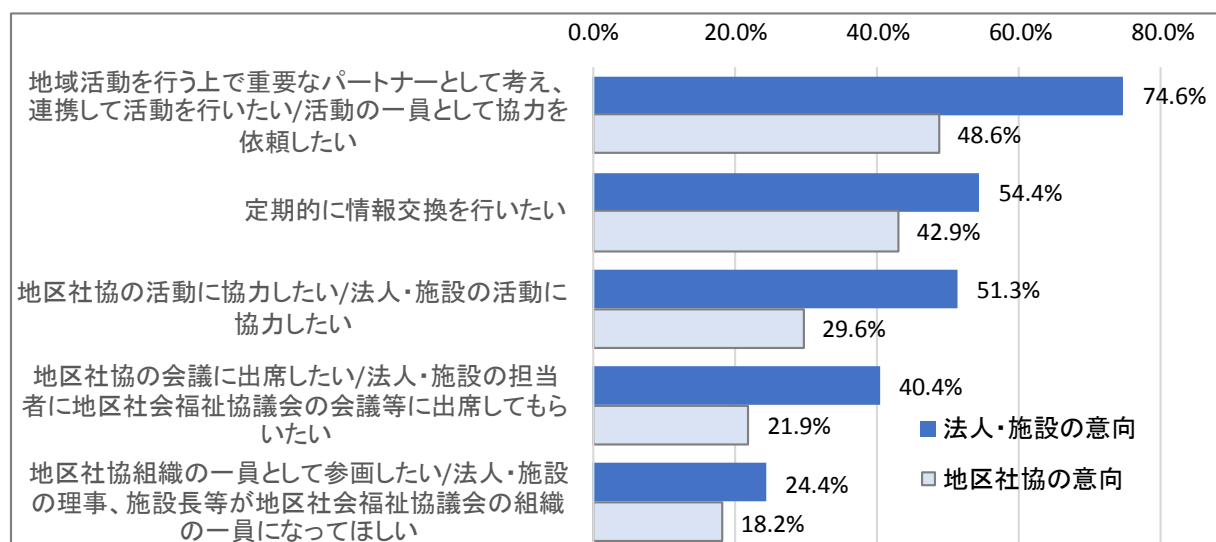
* 法人・施設の回答／地区社協の設問文、ただし／がない場合は同じ設問文

回答数
法人・施設：296
地区社協：247

（６）社会福祉法人・施設と地区社協との今後の関わり

社会福祉法人・施設と地区社協との今後の関わり方について、双方「地域活動を行う上で重要なパートナー」として認識しています。また、「定期的に情報交換を行いたい」も双方２番目に重視しています。今後、法人・施設と地区社協がお互いの課題や状況を共有・理解しながら、共に協力し合って地域貢献活動を担っていくことが期待されます。

図 40 社会福祉法人・施設と地区社協との今後の関わり



* 法人・施設の回答／地区社協の設問文、ただし／がない場合は同じ設問文

回答数

地区社協と関わりのある法人・施設：138

地区社協：247

（７）法人・施設と地域が一体となって豊かなまちをつくらせていくために

法人・施設と地区社協は地域貢献活動に対して、重要なパートナーとして認識し合っており、成果に関しても地区社協は法人・施設が地域での認知度が高まることを高く評価しています。さらに、法人・施設が地域を活性化し、また高齢者や子育て世帯などの生活支援、さらに地域全体の福祉の知識を高めてくれることにも期待しています。

しかし業務多忙、職員の人材不足等から、法人・施設は地域と情報共有の機会が持ちにくく、双方の状況を理解できないことも課題として挙がりました。

今後、法人・施設が地域と一体となって地域貢献活動を行うために、双方が理解し合える工夫が必要で、そのためには、調整役、つなぎ役の機能が重要となります。